



令和6年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業
(創造的教育方法実践プログラム)

研究開発実践報告書 【2年次】



フォレストピア学びの森

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校



令和6年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム） 2年次研究開発実践報告書の発行にあたって

本校は、宮崎県の「フォレストピア宮崎構想」を受け、平成6年4月に宮崎県立五ヶ瀬中学校・五ヶ瀬高等学校（全国初の公立の中高一貫校）として開校しました。その後、平成11年の学校教育法の改正に伴い、現在の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校となり、令和6年度で創立31年目を迎えています。これまで、全寮制という教育環境の中で、山里の自然や人材を活用した多くの体験型学習をとおり、「感動」を味わい「感性」を磨く教育を実践し、豊かな人間性と社会性を育み、個性豊かで創造的な発想を身に付けた人材を数多く輩出してきました。創立当初から今日まで、本県のみならず全国の教育をリードし、真の「生きる力」や「人間力」を育成するための教育活動を展開しています。

本校は、平成26年度からスーパーグローバルハイスクール（SGH）に、さらに平成31年度からは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型：G型）」に採択され、発展的な教育活動の組織体として「共学共創コミュニティ」を形成し、Society5.0をGIAHS地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民」の育成を目指し、研究開発を進めてきました。これは、五ヶ瀬町を含む近隣5町村が平成27年に世界農業遺産・認定地域（GIAHS地域）に指定されたことに依拠しており、構成員（自治体・教育機関・地域NPO）と連携し、コンソーシアムを構築、さらに構成員との協働的な地域課題研究の実践（共学）と、外部人材との協働的なカリキュラム開発（共創）の実現により、本校を拠点として「地域に共に学び、地域と共に未来を創る人材（地域人材）」の育成を図りやすい環境が整備されたためです。このG型を通して、多岐にわたる活動の評価観点とした「見る力」「問う力」「試みる力」「関連づける力」「繋がる力」の5つの力は、確実に生徒に育まれてきています。

令和5年度から本校は「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」の研究指定校となりました。研究テーマは「VUCA時代を生き抜く、野性味あふれる『価値創造人材』の育成」です。具体的には、本校の特徴である体験活動を通じた「リアルな学び」と、AIやVR、メタバース等の先端技術（デジタル）を融合させた「新次元の教育活動」を展開し、研究テーマの実現を目指すものです。研究開発2年次に実践した事業等は次のとおりです。

- 1 探究力を育む学校設定科目等のカリキュラム開発に関する事業
- 2 文理融合・教科横断的な学びの推進に関する事業
- 3 オンラインを活用した大学や研究機関・協力校との連携に関する事業
- 4 先端技術（デジタル）と体験活動（リアル）を融合させた「新次元の教育活動」に関する事業
- 5 事業の推進体制・学びの環境構築
- 6 評価に関する事業

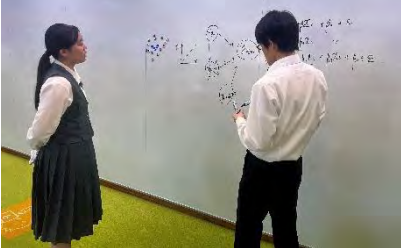
本報告書は、研究開発2年次の研究成果を取りまとめたものです。本報告書を御高覧いただき、ご教示いただきたいと思います。

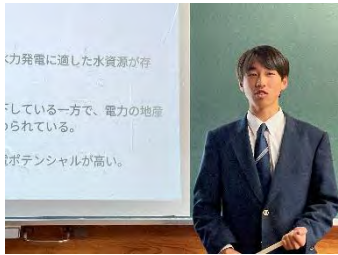
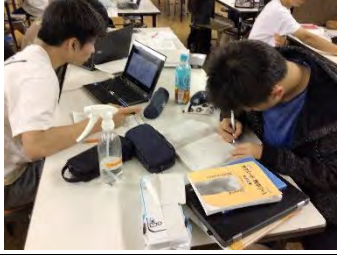
結びに、本校の研究開発に深いご理解と温かいご支援をいただきました関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
校長 平和正

[巻頭写真] 事業風景

「学際探究基礎」VR 体験 	「学際探究基礎」予備実験を行おう 	「学際探究基礎」ドローンシミュレーター 
「学際探究」データサイエンス 	「GF 探究」わらじ作り 	「GF 探究」わらじ遠足 
「GF 探究」石橋見学 	「GF 探究」英語対話 	「GF 探究」哲学対話 
価値創造フォーラムにおけるメタバースの活用  		山腹用水路フィールドワーク 
GF 海外研修旅行（シンガポール） 		地理授業における次世代型電子黒板の活用 
「GIAHS アカデミー」生産者への取材活動 		英語授業における生成 AI の活用 

文理融合・教科横断型授業	教科横断型授業 グループワーク	オンラインを活用した遠隔講座
		
コンソーシアムメンバーによる出前授業	コンソーシアムメンバーとの対話	1人1台端末を活用した自主学习
		
3D プリンタを活用したロボット製作	GF 探究成果発表会【学年別】	GF 探究成果発表会【ワークショップ】
		
発表会審査員によるフィードバック	学会発表(日本地理学会)	九州大学主催探究成果発表会
		
オープンスクールにおけるメディアの活用	運営指導委員と生徒との対話	こだま寮における学習
		
防災フィールドワーク	万博出前授業(TOPPAN)	行政機関との対話
		

～ 目 次 ～

[巻頭言] 研究開発実践報告書2年次の発行にあたって [巻頭写真] 事業風景

第1章 令和6年度 創造的教育方法実践プログラムの概要

- 1-1 研究開発概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- 1-2 構想概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
- 1-3 目標設定シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
- 1-4 事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

第2章 令和6年度 創造的教育方法実践プログラム実施報告

第1節【探究力を育む学校設定科目等のカリキュラム開発に関する事業】

- 2-1-1 教育課程改革（SM・GPの達成に向けて）・・・・・・・・ P8
- 2-1-2 学校設定科目「学際探究基礎（3年）」の開発・・・・・・・・ P10
- 2-1-3 学校設定科目「学際探究基礎」と「GF探究」との接続・・・・・・・・ P12
- 2-1-4 学校設定科目「学際探究（6年）」の開発・・・・・・・・ P13
- 2-1-5 「野性味あふれる『価値創造人材』」の定義・解釈について・・・・・・・・ P15

第2節【文理融合・教科等横断的な学びの推進に関する事業】

- 2-2-1 各教科における「育てたい5つの力」の観点・・・・・・・・ P16
- 2-2-2 教務部と研究調査部の協働による教科横断型授業研修の通年実施・・・・・・・・ P17
- 2-2-3 「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業・・・・・・・・ P19

第3節【オンラインを活用した大学や研究機関・協力校との連携に関する事業（コンソーシアムとの協働）】

- 2-3-1 福岡県立系島高校との交流『価値創造フォーラム』・・・・・・・・ P27
- 2-3-2 九州大学・京都大学防災研究所・宮崎県立日南高校との協働研究
『教養講座・先端技術(デジタル)×現地調査(リアル)で探究する宮崎の防災』・・ P28
- 2-3-3 京都府立洛北高校，総合地球環境学研究所との協働・・・・・・・・ P30
- 2-3-4 宮崎大学との協働研究
世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」の山腹用水路に関する研究・・・・・・・・ P31
- 2-3-5 世界農業遺産 高千穂郷椎葉山地域 活性化協議会との協働
『GIAHS アカデミー』・・・・・・・・・・・・・・・・ P33
- 2-3-6 JICA九州との連携『シンガポール海外研修』・・・・・・・・ P35

第4節【先端技術(デジタル)と体験活動(リアル)を融合させた「新次元の教育活動」に関する事業】

- 2-4-1 教科における取り組み例
 - ①『情報Ⅰ』『技術』授業におけるシングルボードコンピュータ「ラズベリーパイ」の活用・・ P37
 - ②『英語』授業における生成AIの活用・・・・・・・・ P38
 - ③『数学』授業における授業計画と評価の「見える化」・・・・・・・・ P39

2-4-2	「グローバルフォレストピア探究」「学際探究基礎」における取り組み例	
①	「グローバルフォレストピア探究」における先端技術の活用	・P40
②	「学際探究基礎」における先端技術の活用	・P41
2-4-3	こだま寮における取り組み	・P42
2-4-4	各種活動の位置づけの再確認	・P43

第5節【事業の推進体制・学びの環境構築】

2-5-1	コンソーシアム体制の構築	・P44
2-5-2	コーディネーターの取り組み	・P45
2-5-3	G-Lab.等の運用による「学びの時空間」の創出	・P46
2-5-4	価値創造コンペティションの実施	・P48

第6節【評価に関する事業】

2-6-1	形成的アセスメントに関する取り組み	・P49
①	AiGROW	
②	数理探究アセスメント	
③	ICE-Qs	
2-6-2	事業2年目における設定目標への到達状況	・P52

第7節【成果の発信や普及（事業のアウトプットやアウトカム）に関する事業】

2-7-1	事業成果の発信に関する取り組み（HP等を活用した情報発信）	・P54
2-7-2	事業内容の普及に関する取り組み	・P55
2-7-3	各種研究大会・発表会・コンテスト等への参加状況	・P56

第3章 創造的教育方法実践プログラム実施上の課題および今後の方向性

3-1	実施上の課題と今後の方向性	・P58
-----	---------------	------

第4章 関係資料

4-1	各大会等受賞作品	
①	グローバルフォレストピア探究成果発表会 最優秀賞受賞作品	・P60
②	世界に羽ばたく高校生の成果発表会（九州大学主催）最優秀賞受賞作品	・P61
③	日本地理学会高校生ポスターセッション 理事長賞受賞作品	・P62
④	2024年度統計データ分析コンペティション「審査員奨励賞」受賞論文	・P63
4-2	新聞記事・インターネット記事・TV報道・雑誌掲載情報	・P65
4-3	運営指導委員会	・P66
4-4	運営指導委員会議事録	・P67
①	第1回（令和6年9月18日実施）	
②	第2回（令和7年1月30日実施）	
4-5	教育課程表（R6年度A表）	・P71
4-6	「学際探究基礎（3学年）」年間指導計画	・P72
4-7	「グローバルフォレストピア探究」年間指導計画	・P73
4-8	担当者一覧	・P74

第Ⅰ章

令和6年度 創造的教育方法実践プログラムの概要

Ⅰ－Ⅰ 研究開発概要

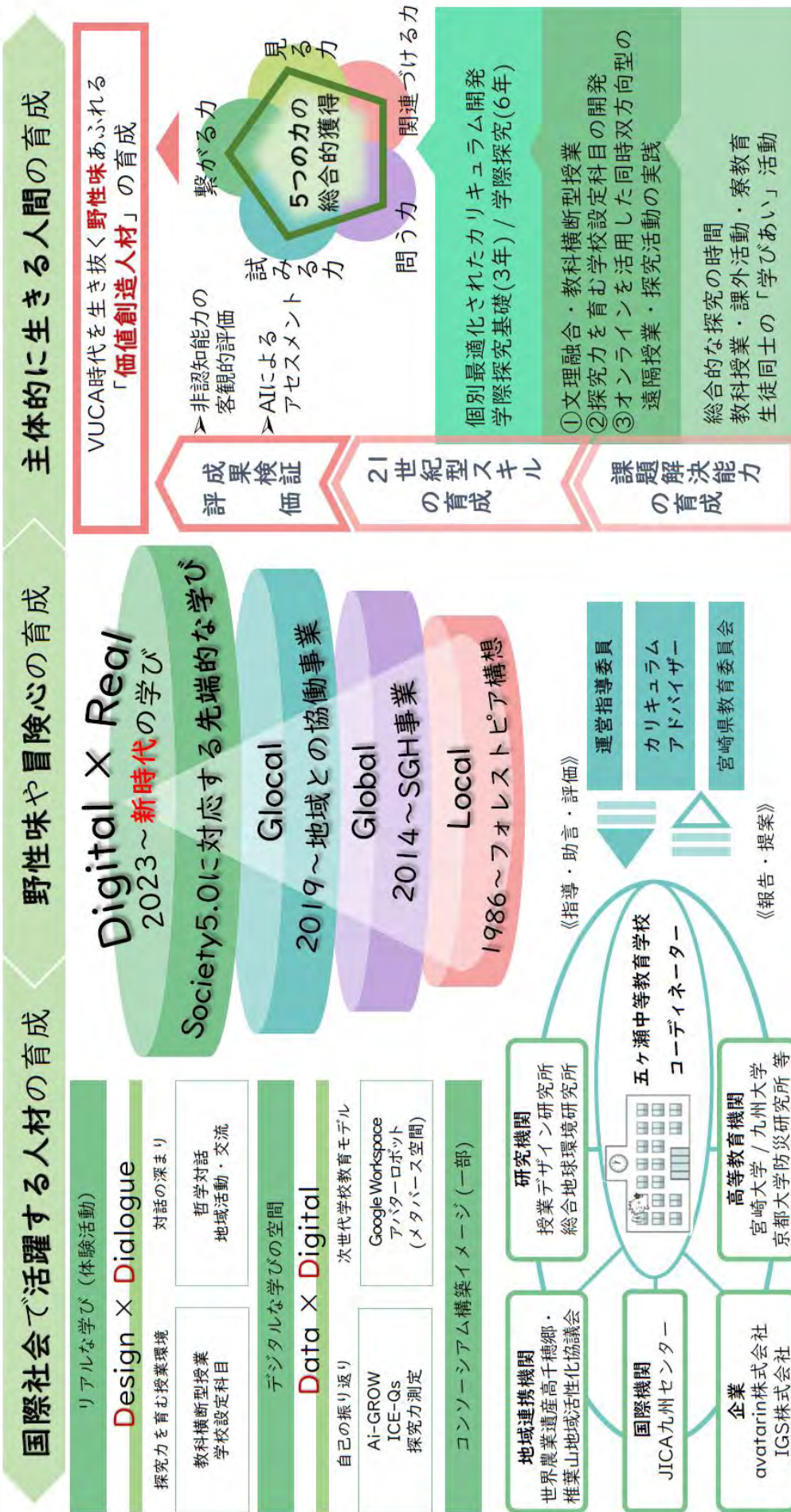
指定期間		ふりがな		みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう				所在 都道府県		宮崎県	
2023～2025		学校名		宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校							
対象学科名		生徒数						学校全体の規模			
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	全国初の公立中等教育学校として、 宮崎県全域より1クラス40名を募集し、1学年から6学年まで、計209名が在籍している。		
全日制 普通科		39	38	35	34	32	31	209			
構想名		VUCA時代を生き抜く野性味あふれる「価値創造人材」の育成									
カリキュラム 開発のテーマ		Society5.0に対応する先端的な学び									
構想の概要		探究力を育む学校設定科目の開発、文理融合・教科等横断的な学びの推進、オンラインを活用した大学や研究機関との連携を軸とした中等教育学校の特性を活かした6カ年の創造的なカリキュラム開発を行い、AIやVR・メタバース等の先端技術(デジタル)と中山間地域で培ってきた本校の特色である体験活動(リアル)とを融合させた「新次元の教育活動」を展開し、VUCA時代を生き抜く野性味あふれる「価値創造人材」を育成する。									
本校を取り巻く状況の分析、本事業に取り組む必要性	本校は、平成6年の開校当初より研究開発校として、「総合的な学習の時間（フォレストピア学習）」において体験活動に基づく「知の総合化」を目指した課題研究を実践してきた。また、平成26年度からは、スーパーグローバルハイスクール(以下SGH)に指定され、平成31年度から指定を受けた地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）（以下G型事業）では、学校を核とした「共学共創コミュニティ」を形成し、教科横断的な学びや海外フィールドワーク、英語ディスカッション等、先進的な地域課題研究を展開してきた。										
	また、本校は中山間地域に位置する全寮制の学校であり、6年間を見通した教育活動を行う中等教育学校である。個人が所有するスマートフォン等を学校や寮に持ち込むことを認めていない他、町内に塾等の民間の教育機関は存在しないため、生徒の学びは専ら学校の授業や課外活動、ならびに寮におけるハウスマスター（舎監）・宿直教員との対話などの寮教育、生徒同士の「学びあい」活動に限られている。このような特異な環境であるからこそ、1人1台端末をはじめとしたICT機器の利活用や、AIを活用した学習効果の検証、VRやメタバース等の先端技術を活用したSociety5.0に対応する先端的な学びの効果を十分に検証し、その成果と知見を広く一般に普及できると考える。										
	コロナ禍で校外での活動が制限され、農村民泊をはじめとした地域との交流、海外フィールドワークなどが実施できず、これまで本校の特色として行ってきた学びが停滞した面は否めない。その中でも全校生徒1人1台端末の実現、学びを止めないためのオンライン授業や宮崎県立高千穂高校、宮崎県立延岡高校、京都府立洛北高校、愛媛県立三崎高校など県内外遠隔地の学校との協働学習など、新しい形の学びを実践することができた。										
	今後は、どんな状況であっても学びを止めることなく、本校の特色である体験活動や探究学習を軸に、同一地域だけに留まらず、オンラインを活用することで総合地球環境学研究所などの研究機関や、JICA九州などの国際機関と連携し、本校の教育目標である「恵まれた自然の中で感性を磨き、生徒一人一人の個性を開発する教育を通して、眼（まなこ）を世界に開き、未来を切り拓く、創造性豊かで主体的に生きる人間の育成を図る。」を実現するために「野性味あふれる『価値創造人材』」の育成を目指したい。										
	しかしながら、従来の普通科の教育カリキュラムで行ってきた教科毎の独立した指導や、「総合的な探究の時間」だけでの課題解決能力の育成には教科横断的な視点が不足している。そのため、探究力を育む学校設定科目の開発、文理融合・教科等横断的な学びの推進、オンラインを活用した大学や研究機関との連携を軸としたカリキュラム開発を行い、教科横断型授業や探究の要素を組み込んだ授業を実践していく。そのような実践をする上で、様々な領域を横断する学際的な取り組みや文理の枠にとられないSTEAM教育など、多様な教科間の繋がりが重要だと考え、										

	学校設定科目として3年生全生徒が履修する「学際探究基礎」と、6カ年の探究活動や教科での学びを深めるために6年生の選択科目として「学際探究」の開発を行う。 2050年には生産年齢人口が現在の2/3に減少すると予測されている。（経産省，2020）これからの社会環境の複雑化，予測困難な時代（VUCA）を生き抜くために，このような実践を通して新たな価値を創造し実践する21世紀型スキルを身に付けた生徒の育成を目指す。 ※21世紀型スキルとは，ATC21s が提唱する21世紀を生き抜くために必要な能力であり，「情報リテラシー」や本校のグラデュエーション・ポリシーにもある，「よりよい人間関係を形成する力」，「地域社会や国際社会に貢献する力」，「創造性や探究心」などを指す。
現状と課題 解決・改善策	経緯 「開校当初」…体験活動に基づく「知の総合化」を目指した課題研究を実践 「SGH 事業」…地域課題研究を軸とした教育カリキュラムを展開 「G 型事業」…問いと社会参画による探究モデルの開発 現状と課題 ①現状の探究活動における課題 →課題解決能力の育成は「総合的な探究の時間」のみで行うものという認識 →教科教育と探究活動との分断化・孤立化 ②中山間地域という立地条件に起因する教育活動の課題 →学校外の研究機関や専門家との連携や接続が困難 →コロナ禍によるグループワーク，校外学習の機会減少 解決・改善策 ①現状の探究活動における課題に対する解決・改善策 →運営指導委員の中にカリキュラムアドバイザーを設け，支援・助言を得ることで課題解決能力の育成に効果的なカリキュラムを開発 →教科横断型授業や探究の要素を組み込んだ授業のための学校設定科目の開発 ②中山間地域という立地条件に起因する教育活動の課題に対する解決・改善策 →オンラインを活用した研究機関や国際機関との連携 →ICT 機器を活用した県内外の学校との継続的な協働学習の実践 →VR やメタバース等の先端技術を活用した先端的な学びの実践と検証
本事業を実施する目的・目標	【目的】 生徒一人一人に応じた個別最適な教育を通して進路意識と学力を高め，生徒の進路実現を目指し，「5つの力」（見る力，問う力，試みる力，関連づける力，繋がる力）の育成を行うことが，本校が設定するグラデュエーション・ポリシーである。 特に本事業では，探究力を育む学校設定科目の開発，文理融合・教科等横断的な学びの推進，オンラインを活用した大学や研究機関との連携を軸としたカリキュラム開発を行い，AI や VR・メタバース等の先端技術（デジタル）と GIAHS 地域に根ざし中山間地域で培ってきた本校の特色である体験活動（リアル）とを融合させた「新次元の教育活動」を展開することで，これからの社会環境の複雑化，予測困難な時代（VUCA）において新たな価値を創造し実践できる 21 世紀型スキルを身に付けた生徒を育成することが目的である。 【目標】 ○オンラインを活用し，中山間地域に位置する本校が他地域の大学や研究機関との連携した同時双方向型の遠隔授業の実践を行うことで，高度な知識の習得や発展的な探究活動の実践を行うことができるようにする。 ○文系と理系の類型をなくしたカリキュラムの中で，自己実現の達成に向けた個別最適な教科，科目を選択できるようにする。 ○学校設定科目や教科横断型授業の実践をすることで，生徒の「創造力」の向上を図る。

VUCA時代を生き抜く野性味あふれる
「価値創造人材」の育成



【宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校】 VUCA時代を生き抜く**野性味**あふれる「**価値創造人材**」の育成



1-3 目標設定シート

ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう
学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (創造的教育方法実践プログラム) 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)						
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値(年度)
(オンラインを活用し、高度な知識の習得や発展的な探究活動を実践した成果目標) オンラインを活用し、他地域の大学や研究機関との連携した同時双方向型の発展的な探究活動を実践した生徒の割合						単位: %
a 本事業対象生徒:			40	65	80	80
本事業対象生徒以外:	12	9	20	30	40	40
目標設定の考え方: オンラインを活用し、中山間地域に位置する本校が大学や研究機関との外部連携を行う。						
(文系と理系の類型をなくしたカリキュラム開発を行い、個別最適な教科、科目を選択を行うことでの成果目標) 探究活動や教科横断型授業の強みを活かし、学校推薦型や総合型選抜等を利用して国内外の大学等を受験する生徒の割合						単位: %
b 本事業対象生徒:			70	75	80	80
本事業対象生徒以外:	81	67	-	-	-	-
目標設定の考え方: 個別最適な教科を自ら選択し、自己実現の達成に向けた進路選択を行うことができる。						
(学校設定科目や教科横断授業の実践による成果目標) 非認知能力の客観的評価とAIによるアセスメント結果から算出される「創造力」について、レベル3以上の生徒の割合						単位: %
c 本事業対象生徒:			45	50	60	60
本事業対象生徒以外:	-	43	40	40	40	40
目標設定の考え方: 学校設定科目や教科横断授業を実践し、生徒の「創造力」を向上する。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
全校生徒数(人)	228	218	219	222	230
本事業対象生徒数			101	103	110
本事業対象外生徒数			118	119	120

Ⅰ－４ 事業の内容

(Ⅰ) 新しい教育手法を活用した教科等横断的な学習のカリキュラム開発に係る概要

学校設定科目の開発

- ◎「学際探究基礎(3学年)」・「学際探究(6学年)」のカリキュラム開発(「4-6」参照)

教科等横断的な学びを実現するための教育課程表・校時程等の見直し

- ◎6カ年の教育課程表の改訂(「4-5」参照)

→令和6年度 4 年生より「文系」「理系」コース分けを廃止し、生徒それぞれが主体的に自身の興味関心やキャリアプランに応じて、弾力的な科目選択を行うことを可能とする。

→文系・理系の枠を超えた資質・能力を育成しつつ、大学進学につながる確かな学力を修得。

- ◎「週 30 単位」時間割の実施、校時程の抜本的変更

→生徒が自由な発想で創造性を発揮して、自らの個別学習計画に基づいて学びを深めることができるように、あえて授業時間数を削減し、朝・夕にゆとりの時間を確保。

→放課後に各教員の得意分野を生かした教養講座や、複数学年を対象とした教科等横断講座、オンライン個別講座等を開講。

- ◎「グローバルフォレストピア(GF)探究」(総合的な探究の時間)プログラムのアップデート

- 学校設定科目「学際探究基礎」「学際探究」と連動した探究力の育成

→レポートの構成や統計データの取り扱い、情報リテラシー、英語でのアカデミックライティングの技術など、これまで「GF 探究」で実践活動と同時に取り扱っていた内容を、「学際探究基礎」「学際探究」において理論的・体系的に学ぶこととし、理論と実践の往還による探究力の育成を図る。

- 他地域の研究機関・高校と連携して共通のテーマについて探究活動を実施

→総合地球環境学研究所・京都府立洛北高校と連携して、メタバース空間において対話・協働しながら、共通の研究テーマについて両校生徒の合同チームでの課題研究を実施。

VR やメタバースなどの EdTech を、学校のあらゆる場面で活用する「学びの時空間」を創出

- ◎学校・寮の施設全体を「学びの時空間」と捉え直し、EdTech を活用した教科横断的・探究的な学びがあらゆる場面で展開される「未来の学校」の姿を創出

- PC 教室・図書室を「G-Lab.」に改装し、生徒が創造性を発揮できる空間デザインに

→大型提示装置や VR システム等を設置し、都市部や世界と繋がることができる環境づくり。

→「グローバルフォレストピア探究」や「学際探究基礎」「学際探究」の授業を中心として、各教科の授業や教科横断型授業、休み時間・放課後等に「G-Lab.」が自由な発想で積極的に活用される光景が日常化(コーディネーターが「G-Lab.」で生徒の活動をサポート)。

- 3D プリンタや VR、メタバース、ドローン等の先端技術の活用により実践探究活動が拡充

→地域との協働による課題研究活動において、様々な先端技術の活用ができるようになることで、これらの技術の応用を前提とした独創的発想に基づく実践的な探究活動が可能となり、探究のプロセスがより深化する。

〈想定される先端技術(デジタル)と体験活動(リアル)とを融合した探究テーマ例〉

- ・五ヶ瀬町内で発見された化石の3D モデルを地図化表現し VR でバーチャルツアーを実施
- ・本校の伝統行事である「わらじ作り」をメタバース空間内で他地域の生徒が体験 等

(2) 令和6年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムの開発	関係機関等との連携協力体制の構築
4月	・オリエンテーション【全】 ・年間計画の作成・探究テーマ設定・大学科目等履修授業への参加【6】	・管理機関と指定校との打合せ
5月	・学際探究基礎概論【3】 ・自由すぎる研究 EXPO への論文提出【6】	・コーディネーターと今後の方針、役割についての打合せ（対面）
6月	・統計データの検索、図書資料の検索、研究論文の検索【3】 ・第1回 Ai GROW【3～6】 ・MSEC 発表ポスター制作【6】 ・Python_DS 基礎【6】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・カリキュラムアドバイザーによる事業内容の打合せ（オンライン） ・先進校視察
7月	・MSEC フォーラム【4～6】 ・資料から社会や歴史を紐解こう①②【3】 ・第1回探究力測定【3～5】 ・Ai GROW の振り返り①【3～6】 ・統計データコンペティションに向けたテーマ設定【6】 ・MLM（多重共線性・変数選択・モデル性能評価）【6】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面）
8月		・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・コンソーシアム会議（オンラインおよび対面） ・校内研修「非認知能力の育成について」（対面 ※カリキュラムアドバイザーも参加） ・第1回運営指導委員会（対面）
9月	・アンケート調査・インタビュー調査の作法【3】 ・哲学対話【3～4】（東京大学・梶谷教授および TA） ・教科横断授業実践公開【全】 ・統計グラフコンクール用のポスター制作【6】	・カリキュラムアドバイザーによる指導・助言（対面） ・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面）
10月	・情報リテラシー【3】 ・データサイエンス【3】 ・国内研修【5】 ・価値創造探究コンペティション【2～5】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面）
11月	・価値創造フォーラム【3～4】 （メタバース・バーチャル空間） ・English Day【5】（立命館アジア太平洋大学の留学生との協働事業） ・表計算ソフトウェアを使用したデータ集計及びグラフ作成【3】 ・実験計画を立てよう（科目横断型）仮説立てから実験へ【3】 ・第2回 Ai GROW【3～6】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・先進校との意見交換（本事業指定校）
12月	・中間発表会【4～5】 ・予備実験を行おう（科目横断型）【3】 ・先端技術×体験活動①【3】 ・第2回探究力測定【3～5】 ・Ai GROW の振り返り②【3～6】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・第2回コンソーシアム会議（オンライン）
1月	・先端技術×体験活動②【3】 ・個人の研究を英語で発表しよう【3】 ・2年次報告書作成 ・次年度計画作成	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・第2回運営指導委員会（対面）
2月	・2年次報告書作成 ・次年度計画作成 ・AI を活用した英語論文作成の手法【3】 ・個人の研究を英語で発表しよう【3】 ・JICA 九州との事前研修【3】（オンライン）	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・新たな連携機関との調整（オンライン）
3月	・2年次報告書完成 ・次年度計画完成 ・探究成果発表会【全】 （オンラインおよび対面） ・JICA 九州での事前研修【3】 ・海外研修（シンガポール）【3】 ・第3回 Ai GROW【3～5】	・連携機関やコンソーシアムとの打合せ（オンラインおよび対面） ・新たな連携機関との調整（オンライン）

3年次は、中学3年のこと。

※【全】:全年次,【1】:1年次,【2】:2年次,【3】:3年次,【4】:4年次,【5】:5年次,【6】:6年次

第2章

令和6年度 創造的教育方法実践プログラム実施報告

第1節【探究力を育む学校設定科目等のカリキュラム開発に関する事業】

第2節【文理融合・教科等横断的な学びの推進に関する事業】

第3節【オンラインを活用した大学や研究機関・協力校との連携に関する事業】

第4節【先端技術(デジタル)と体験活動(リアル)を融合させた「新次元の教育活動」に関する事業】

第5節【事業の推進体制・学びの環境構築】

第6節【評価に関する事業】

第7節【成果の発信や普及（事業のアウトプットやアウトカム）に関する事業】

2-1-1

教育課程改革（SM・GP の達成に向けて）

（1）事業のねらい

本校スクールミッション（県教委策定 以下 SM と記載）及びグラデュエーションポリシー（以下 GP と記載）の確実な達成を期すため、令和3年度より議論を開始し、本事業指定に合わせて本格実施へと移行した。SM 及び GP は以下の通りである。

《スクールミッション》

- 中高一貫の6年間を見通したカリキュラム編成や教科指導、全寮制による生活体験により、生徒一人一人に応じた個別最適な教育を通して進路意識と学力を高め、生徒の進路実現を目指す学校
- 森林という自然を教育のフィールドとして、自然に対する畏敬の念を育て、若人らしい野性味や冒険心の育成と回復に努め、豊かな人間性と創造力・協調性を培い、主体的に生きる人間の育成を目指す学校
- 感動と感性の教育を基盤にたくましい心と身体、豊かな情操を培い、体験活動や体験学習、探究学習を通して自己教育力を育み、地域社会に貢献し、グローバル化する社会で活躍できる人材の育成を目指す学校

《グラデュエーションポリシー》

「志」：【問う力】

自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身につけるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身につけることができる。

「忠」：【見る力】

自己理解、自己管理を通して個性を伸ばし、豊かな感性を磨くとともに、地域社会や国際社会に貢献していく力を身につけることができる。

「恕」：【繋がる力】

他者理解を通して豊かな人間性や協調性を身につけるとともに、より良い人間関係を形成する力を身につけることができる。

「妙」：【関連づける力】

多様な学びを経験することで生まれる創造性や探究心を高めるとともに、理想の在り方・生き方を表現する力を身につけることができる。

「気」：【試みる力】

自然に対する畏敬の念を持つとともに、自らの可能性を切り拓くために何事にも挑戦し続ける力を身につけることができる。

（2）事業の概要

以下4つの取組を中心としている。

- ①校時程再編成：標準単位への移行
- ②教育課程登録の見直し：文理選択の廃止
- ③早期履修の拡充と積極的推進：中等教育学校の特性の活用
- ④学校設定科目の開発・実施：探究活動との往還・融合

（3）事業の成果と課題

① 校時程再編成

生徒が自らの興味関心に合わせ、自律的かつ主体的な学習者として成長するためには、基盤となる時間的保証が不可欠である。探究活動のため、また進路実現に資する個々の学習活動などに利用できるよう、標準単位時間で校時程を再編成した。

ア 成果

登校から授業開始までの時間及び放課後に、生徒が独自に学習を進める姿が多くみられるようになった。特に本事業により整備されたG-Lab.で3Dプリンタを使用したり、図書室に設置された電子黒板でオンラインでのミーティングを実施したりなど、これまでにない創造的な活動に特徴がある。

イ 課題

時間の活用法は生徒の主体性に依存するため、学びを深めたり、デザインしたりする方向で活用できていない生徒も一定数存在する。職員による丁寧な伴走が必要であることから、研修を通じて共通認識を図る必要がある。

②教育課程登録の見直し

単一分野では解決できないほどに複雑化・高度化する現代社会の諸問題に対処しうる人材育成を目指し、令和4年～6年度の6年生では「学際コース」を創設した。また6年度5年からは「文・理」という選択の枠組みを廃止した。

本校で学ぶ全ての生徒の、幅広い科学的知識及び視点の獲得を目的とする。STEAM教育の視点を取り入れた選択科目や学校設定科目・教科を拡充（後述）し、大学入試に十分対応するとともに、将来にわたる生徒の自己実現の支援を目指した。

ア 成果

苦手分野からの逃避ではなく、自らの進むべきに真摯に向き合った進路選択をできる生徒が増加した。科目選択への大学受験の影響は否定できないが、近視眼的な分野選択からの脱却は実現できたと感じている。また令和6年度学際コースでは各種研究発表において、数多くの賞を受賞することができた。学際コースで得られた教育成果を令和8年度からは全生徒への教育活動として広げていく予定である。

イ 課題

「学際コース」選択生徒は令和5年度が0名、令和6年度が1名であり、令和7年度に2名が選択予定である。少数の生徒に対し多くの教員が関与して得られた知見は多くあるが、令和8年度の6年生全員での実施をどのように展開するかが今後の課題である。生徒の主体性をどれだけ向上させられるかがポイントとなる。

③早期履修科目の拡充と積極的推進

中等教育学校である本校の特性を生かし、高校教育課程の一部を前期生（中学3年相当）で実施してきた。令和5年度からは教科・科目を拡大するとともに学校設定科目を創設（後述）し教育活動を実施してきた。本校が伝統的に行ってきた探究活動の研究基礎論としての活動によって本校の特性の一層の深化を目指している。

ア 成果

高校受験を経験しない本校3年生にとって、学習や生活における中だるみの状態にあるという指摘は以前からなされてきたが、その改善が見られた。中学－高校での不適応、いわゆる高1ギャップの効果的な解消にもつながる考察が得られたと自負している。

イ 課題

早期履修は中学校教育課程の十分な理解の上に成立するものである。これまで以上に丁寧な授業実践により、それぞれの生徒の状況に応じた伴走が必要である。

④学校設定科目の開発・実施

SM・GPの達成に向け、令和7年度は以下の7つの学校設定教科・科目を実施予定である。

- ・表現探究（国語）
- ・数学探究（数学）
- ・理科基礎探究（理科）
- ・情報探究（情報）
- ・情報活用（情報）
- ・学際探究基礎（学際 ※学校設定教科）
- ・学際探究（学際）

令和8年度は英語、また学校設定教科「学際」において「データサイエンス」などの開発・実施を計画している。

ア 成果

生徒の進路目標や将来にわたる自己実現の大きな原動力となったと自負している。学際コース（前述）でのきめ細かな指導は進路実現に不可欠なものだったと当該生徒は述べている。来年度の実践と合わせ、令和8年度からの実践に資するものとなると考えている。

イ 課題

前述のとおり、これまでの丁寧な指導を学年全体にどのように拡張していくかが喫緊の課題である。

2-1-2

学校設定科目『学際探究基礎（3年）』 の開発

(1) 事業のねらい

【科目目標】

これまでの探究活動で身につけてきた、本校が設定する「5つの力」（問う力、試みる力、見る力、関連づける力、つながる力）をさらに深め、現代的な諸課題に対応して求められる資質・課題解決能力を育成する。

(2) 事業の概要

①他教科・科目との繋がり

本年度は学際探究基礎とグローバルフォレストピア探究（総合的な探究の時間）の年間計画を1枚のシートにまとめ、2科目間の繋がりを意識した。この2科目は隔週で行っており、学際探究基礎で深めた探究の力を次週のGF探究で実践し、そこで得た学びをまた学際探究基礎に還元するという、学びの往還を目指した。

また、シートでは各回で深く関わる教科についても整理をし、学際探究基礎との結びつきを意識して各教科の授業進度を調整した。

科目の目標					
これまでの探究活動で身につけてきた、本校が設定する「5つの力」（問う力、試みる力、見る力、関連づける力、つながる力）をさらに深め、現代的な諸課題に対応して求められる資質・課題解決能力の育成する。					
＜29期3学年「学際探究基礎」実施計画＞					
回	実施日	実施校時	関係する教科等	担当者	場所
【学際探究】5/16(木) 探究活動・6/16(金) 探究活動（講師：佐藤利平さん、本校部事業員）					
【学際探究】5/23(木) 「地域を学ぶ」 （講師：道川一幸さん、五ヶ瀬地域おこし協力隊）					
1	5/30(木)	5.6限目	学際探究/理科	友岡、山之内、後藤	3年教室
【学際探究】6/6(木) 「実践探究活動～テーマ設定～」 （本校職員 等）					
2	6/13(木)	5.6限目	⑤社会	⑤上田、⑥中川、友岡	G-lab 図書室
3	6/20(木)	3限目	—	テスト監督	3年教室
【学際探究】6/27(木) 「実践探究活動～テーマ設定～」 （本校職員 等）					
4	7/4(木)	5.6限目	⑤国語、⑥社会	鈴木圭、岩村、中田	—
【学際探究】7/11(木) 「先行事例研究～論文検索と図書館の利用について～」 （本校職員 等）					
5	7/18(木)	5.6限目	⑤社会	岩村、中田	—
【学際探究】9/12(木) 「哲学対話・「問う」ことについて・ファンリレーションのやり方」 （東京大学・後援員先生）					
【学際探究】9/17(火) 部事業公開授業 9/17(火)					
【学際探究】9/19(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
6	9/24(火)	5.6限目	⑤国語	鈴木圭	—
7	10/17(木)	5.6限目	⑤数学	喜多、山之内、山田和	—
【学際探究】10/24(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
【学際探究】10/31(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
【学際探究】11/8(金) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
8	11/7(木)	5.6限目	⑤数学	喜多、山之内、山田和	—
9	11/14(木)	5.6限目	⑤理科	喜多、友岡、山田和	—
【学際探究】11/28(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
10	12/5(木)	5.6限目	⑤理科	喜多、友岡、山田和	—
13	12/12(木)	5.6限目	⑤保健、音楽、その他	加藤、渡邊、その他	—
【学際探究】12/19(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
【学際探究】1/16(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
14	1/23(木)	5.6限目	⑤保健、音楽、その他	加藤、渡邊、その他	—
【学際探究】1/30(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
15	2/6(木)	5.6限目	⑤英語	田宮、後藤	—
【学際探究】2/20(木) 「実践探究活動～情報・AI・仮説設定～」 （本校職員 等）					
16	2/26(水)	5.6限目	JICA九州、JICA岩手、JICA山形、JICA青森、JICA秋田、JICA宮城、JICA福島、JICA茨城、JICA栃木、JICA群馬、JICA埼玉、JICA千葉、JICA東京、JICA神奈川、JICA新潟、JICA富山、JICA石川、JICA福井、JICA岐阜、JICA愛知、JICA三重、JICA滋賀、JICA京都、JICA大阪、JICA兵庫、JICA奈良、JICA和歌山、JICA徳島、JICA高松、JICA香川、JICA愛媛、JICA高知、JICA福岡、JICA佐賀、JICA大分、JICA熊本、JICA鹿儿岛、JICA沖縄	橋口様、西村様、山之内	—
【学際探究】3/4(火)～3/9(日) 「グローバル探究活動」 会シンガポール 等					
【学際探究】3/12(木) 「探究活動～情報・AI・仮説設定～」					
【学際探究】3/14(金) 「探究活動～情報・AI・仮説設定～」					

図1 R6 年度学際探究基礎年間計画シート

②今年度の新たな試み

ア 第6回アンケート調査・インタビュー調査の作法

日時：9月24日(火)

仮説について、アンケート調査、インタビュー調査によって検証する方法を学ぶ授業を設定した。リサーチクエッション・仮説の立て方、定量と定性の違い、質問項目の作成などを扱った。



図2 アンケート調査の作成

イ 第9・10回 実験計画を立て、予備実験を行おう

日時：11月14日(木)、12月5日(木)

仮説について、実験による検証方法を学ぶ授業を設定した。研究計画書の作成、予備実験、記録の仕方などを、科目横断型（物理、化学、生物）で行った。

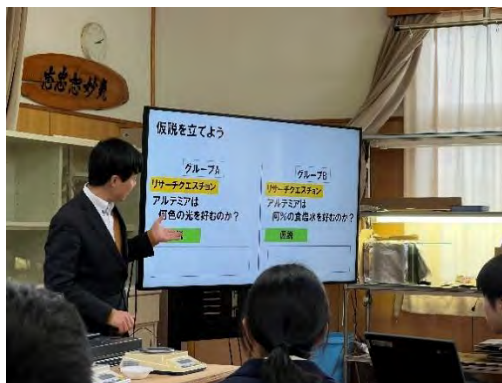


図3 実験のリサーチクエッション



図4 アルテミアの光走性・好塩性の実験

ウ 第13・14回 先端技術×体験活動

※『2-4-2 「グローバルフォレストピア探究」「学際探究基礎」における取り組み例 ②「学際探究基礎」における先端技術（VR・ドローン・3D プリンター・360 度カメラ等）の活用』で述べる。

(3) 事業の成果と課題

①他教科・科目との繋がり

GF 探究におけるテーマ設定について、学際探究基礎で学んだ資料の検索方法や解釈の仕方などを活用しながら取り組んでいる姿がみられた。また、学際探究基礎で扱った探究の各課程について“統計やグラフ作成、アンケートの仕方などが探究に活かされた”という意見にもあるように、GF 探究への還元が上手くいっていた。

学際探究基礎の「データサイエンス」に向けて、数学Ⅰの単元「データの分析」を先取りした。その他の教科でもカリキュラムを調整し、学際探究基礎へと繋げる動きがみられた。このように、各教科の学びを、学際探究基礎を介してGF 探究での実践へとつなげる流れが生まれつつあり、改めて各教科で身に着けるべきコンピテンシーとは何か、ということが問われている。

②今年度の新たな試み

ア アンケート調査・インタビュー調査の作法

【生徒の感想】

課題研究をするときにアンケートをすぐしてしまいがちなのでしっかりと段階を踏んでからアンケートをしようと思った。なんのためにアンケートをとったのか分からなくならないようにしたい。質問するときには自分の仮説を立証したい思いがあって誘導尋問になりがちなので気をつけたい。

上記生徒の感想のように、安易にアンケートを行うことを改めたいというや、リサーチクエッション、仮説、検証という流れを意識した質問づくり行いたいという意見が多くみられた。アンケートの作り方について理解が深まっていたと思われる。ただし、作成したアンケートを、何処でどのように配布するのかあるいは回収するのかという、具体的な実施方法について扱うことが出来なかったため、

次年度は改善したい。

イ 実験計画を立て、予備実験を行う

【生徒の感想】

絶対実験とかできないし、案が思いつかないと思っていたが、意外と実験することができて、何度もすれば、良い結果が得られそうだった。終わったときの達成感は今でもすごいです。また、他の班も同じ感じの実験なのかなと思っていましたが、方法も全然違ったりして、驚きました。

上記生徒の感想のように、生徒自身が計画した実験方法で試行錯誤しながら粘り強く実験を繰り返す姿が見られた。この生徒については最初はかなり簡素な実験計画を作成し、手を動かす中で、具体的な実験計画を作り上げていた。一方、最初の実験計画を作成する段階で、実験が失敗することをばかり予想し、議論ばかりでなかなか手を動かさず、結果的にはほとんど何もできなかったといグループも存在した。

今回の実験では、仮説の正否は問わず、自分達で立てた仮説を検証可能な手法であること、再現可能であることなどに重きを置いて取り組ませていた。ただ、生徒達は熱心に取り組むあまり、いつの間にか自分たちが立てた仮説は正しいと決め込みようになり、仮説が正しいことを支持する結果のみを恣意的に集めるようになった。研究倫理について触れる絶好の機会であったが、逃してしまった。

③年間の振り返り

年度当初、育成したい資質について「身につけている力」をアンケートで回答してもらい、事業開始後に実施した授業をもとに、3月に同様のアンケートを実施した。その結果、思考力（47.1%→64.7%）などすべての資質において、数値が上昇したことから「現代的な諸課題に対応して求められる資質・課題解決能力」を育成することができた。

2-1-3

学校設定科目「学際探究基礎」と 「GF探究」との接続

(1) 事業のねらい

昨年度から開講された学校設定科目「学際探究基礎」と既存の「グローバルフォレストピア探究（総合的な探究の時間）」（以下 GF 探究）で学んだことを往還させ、よりつながりをもたせることを目的とする。

(2) 事業の概要

「学際探究基礎」と「GF 探究」のシラバスと年間指導計画を見直し、内容が重複している部分の改善を図った。

見直した結果、学際探究基礎「図書資料の検索、研究論文の検索」と3学年 GF 探究「先行事例研究 論文検索と図書室の利用について」の内容が重複していた。そこで、令和7年度より、学際探究基礎において「論文検索と図書室の利用について」を行い、3学年 GF 探究から「先行事例研究 論文検索と図書室の利用について」を削除した。

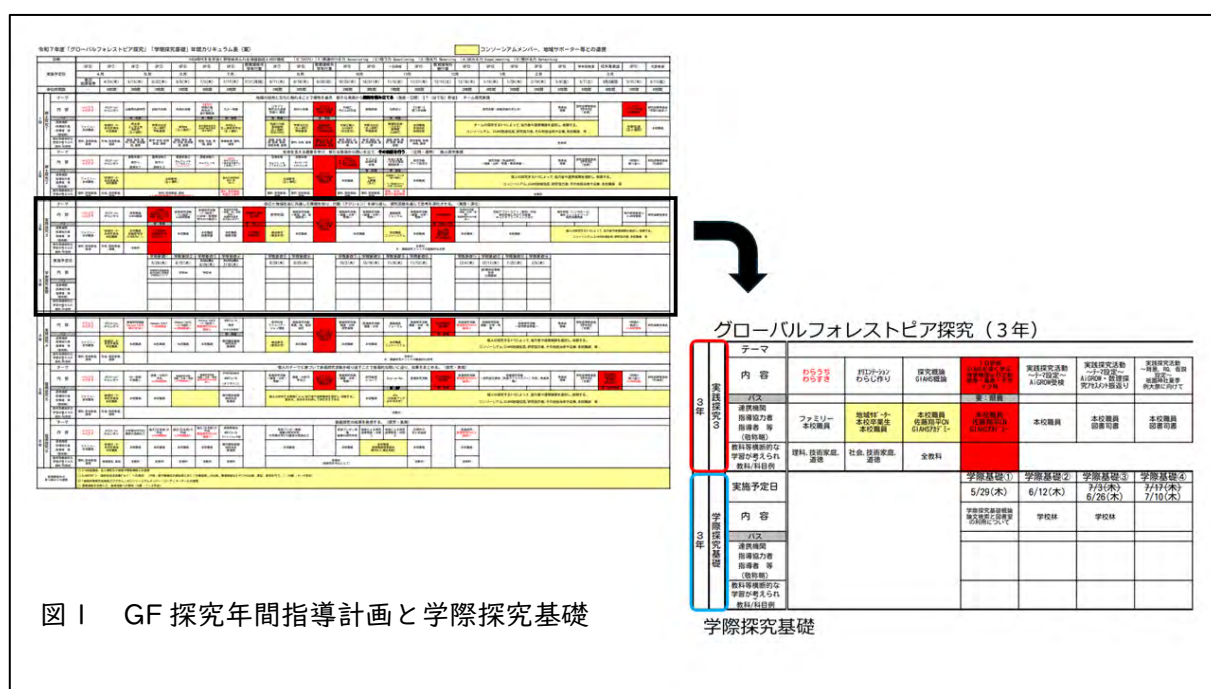
持続的に「学際探究基礎」と「GF 探究」のつながりをもたせるために GF 探究の年間指導計画の中に「学際探究基礎」の指導計画も入れることとした。（図1）

(3) 事業の成果と課題

「GF 探究」の年間指導計画に「学際探究基礎」の年間指導計画を入れることで、重複している内容を比較しやすくなっただけでなく、視覚的に2つのつながりを意識しやすくなった。

また、二次的な成果ではあるが、GF 探究の年間カリキュラムにある無駄を取り除き、GIAHS 地域へのフィールドワークといった新たなプログラムの創出ができた。さらに、今まで GF 探究で曖昧に取り扱ってきた3学年の祇園神社夏季例大祭への参加や課題としていた1学年の荒踊り本番についてなどの教育課程外の活動も年間指導計画に書き入れたり、形成的アセスメントである Ai GROW や数理探究アセスメントの実施、振り返りを GF 探究内に設定したりと GF 探究のアップデートに大きくつながることができた。

課題として、「学際探究基礎」で学んだことが、実際に GF 探究での探究活動にどのように活かされたのか見取る仕組みがないことがあげられる。



2-1-4 学校設定科目

『学際探究(6年)』の開発

(1) 事業のねらい

生徒が5年次までに洗練してきた「5つの力」と探究活動を核とし、より専門的な知識・技能の習得、および探究活動の完成に向けた学習活動を行う。

(2) 事業の概要

①ビジョン共有・個別最適な計画

4月、学際探究コース生徒1名と担当教員5名の顔合わせを行い、当該生徒が本科目で目指したい方向性と、指導計画について話し合った。結果として、5年次までに行ってきた探究(男性の化粧意識に関するアンケート分析)をより厳密な科学的手法で再分析すべく、取り組むべき研究課題の見直しと、そのアプローチを実行するために必要な統計理論・実践スキルの指導計画を立てた。指導内容別に教員2～3名のチームを編成し、曜日ごとに内容を変えて取り組んだ。特筆すべき点は、今年の生徒は6年次に選択科目として数学を選択していなかったものの、本科目にて局所的に大学レベルの統計学とプログラミングを学んだことである。また、放課後の時間を利用して中央大学経済学部のオンライン講座(経済学概論)も履修した。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

図1 学習計画表(6月)

②指導過程・成果

統計学的視点を身に付けることは、探究の仮説と手法を再考する上でも急務であったため、5月～8月はほぼ毎回の授業の一部を使い、少しずつ理論を扱った。この際、単元ごとの知識確認方法の精選、応用事例の提示、プログラミング実験を頻繁に行うことで、単なる知識では

なく「納得して使えるスキル」を習得させることにこだわった。身につけたスキルや研究成果を発表する機会として、以下の大会・コンペティションに参加した。

- 5～6月 自由すぎる研究 EXPO
- MSEC フォーラム
- 7～8月 宮崎県グラフコンクール
- 8～9月 統計データ分析コンペティション

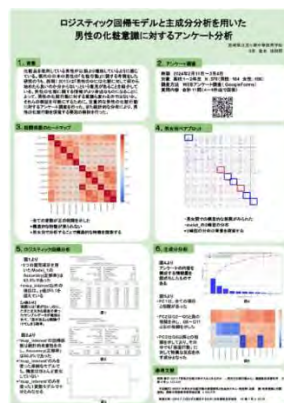


図2(左) 自由すぎる研究 EXPO ポスター

図3(右) MSEC ポスターセッション風景

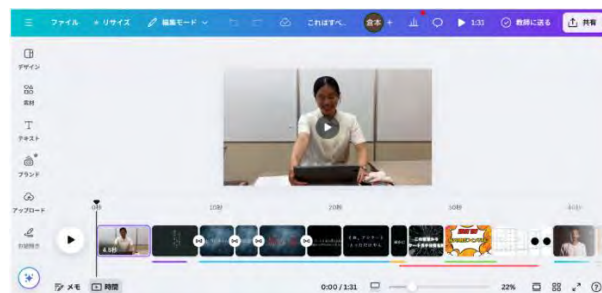


図4 自由すぎる研究 EXPO 動画制作風景



図5(左) 宮崎県グラフコンクールポスター

図6(右) 統計データ分析コンペ掲載論文

『自由すぎる研究 EXPO』は入選（490 位 /3857 作品中），『統計データ分析コンペティション』は審査員奨励賞（5 位相当/124 論文中）受賞を果たした。それぞれの作成にあたり，動画制作や，対話型プレゼンスキルの向上にも取り組んだ。

9 月～12 月は，大学進学前に復習・予習しておきたい学習内容を整理し，曜日別に「高校数学」「統計・プログラミング」「経済学」「論文英語・レポート作成スキル」を学んだ。

③生徒の声（R7.1.30 運営指導員会報告時）

私はそもそも数学に苦手意識があったのですが，自分の探究テーマと関連付けながら統計学を学ぶことで，数学の必要性や奥深さに気付くことができました。プログラミングもほとんどゼロベーススタートでしたが，夏休みまでに「学び方」がある程度分かるようになっていたお陰で，何とか統計データ分析コンペティションの論文提出に間に合いました。自分の探究テーマを突き詰められただけでも達成感がありましたが，結果として審査員奨励賞という形で外部から一定の評価を得ることができたことも自信に繋がりました。一方で，自分の研究の甘さや，数学・英語・国語力の不足も痛感しました。

このような経験や気付きは，学際探究コースを選択したからこそ得られたものだ強く感じています。また，自分のニーズをすぐに反映して，学びのスケジュールを柔軟に調整・対応してくださった先生方に感謝しています。



図7 R7.1.30 運営指導員会報告風景

④指導者の声

生徒の関心に合わせた学習内容を見出し，計画し，運営していくのは，当然ながら骨の折れる仕事でした。結果的に「成功した」といえる手応えは感じられたものの，次年度人数が増え，生徒の関心領域も担当教員も変わった上で成功パターンを再現できると，確証を持って言うことは出来ないというのが正直なところです。それでも今年の学際探究が成功の流れに乗れたのには，いくつか明確な要因があったと感じています。

第一に，生徒が自身の探究テーマに対して真に強い想いを抱いていたことが挙げられます。探究の再分析やコンペティションの論文執筆時，先に手法を教えることで生徒の主張や発想が影響を受けてしまうのを極力抑えるため，まずは生徒から仮説やアイデアの原案を提示し，技術的可能性を教員チームと議論するという手順を踏んでいたのですが，生徒の関心対象がブレなかったことで，このサイクルが常に生徒中心であり続けました。特にデータ分析というものは，手元にデータがあるとそれに囚われすぎて他のデータセットに目を向けたり，文献調査が疎かになったりするものです。その点，今年度の生徒はデータ分析を初めて本格的に学ぶからこそ先入観が少なく，5 年次までに培った基本的な探究プロセスを丁寧に実践できていました。また，難解な統計理論を扱っているときも常に前向きな態度で自己調整を行い，ほぼスケジュール通りに毎回の学習をクリア出来ていたのは，本物の探究心と野性味を備えていたからだと思います。

第二に，教員チームが全員積極的であったことも今年度の成功要因でした。『前例を創る』ためのアイデア出しやコミュニケーションに時間を割くことに余念がなく，自分に専門性が無くても他のメンバーが知っているか，皆で学べばどうかなるだろうという，ある意味無責任なまでの相互信頼と試行錯誤精神が本講座の熱量に繋がっていました。メンバーやテーマが変わっても，それに関わる人たちが上記のマインドを持つことで，「学際探究」の不確定要素を可能性に変換できると思います。次年度以降も，更なる挑戦を行う講座でありたいと思います。

2-1-5

「野性味あふれる『価値創造人材』」の定義・解釈について

(1) 事業のねらい

創P事業の目的は、「VUCA時代を生き抜く野性味あふれる『価値創造人材』の育成」である。運営指導委員からのアドバイスを活かし、次年度に向けてこのプロジェクトを完成させるために、改めて「野性味あふれる『価値創造人材』」の定義と解釈を確認し、それを職員間で共有しながら、3年目に向けた具体的な方向性を整理する。

また、2019年に開始した「教育課題プロジェクト（図1）」から6年が経過し、職員が大幅に入れ替わった現時点で、多様なメンバーが集まり、学びの森の将来について深く考え語り合い、その成果を記録に残すことは、今後の貴重な財産となると考えている。そのために、1日研修を実施した。



図1 教育課題プロジェクト報告書

(2) 事業の概要

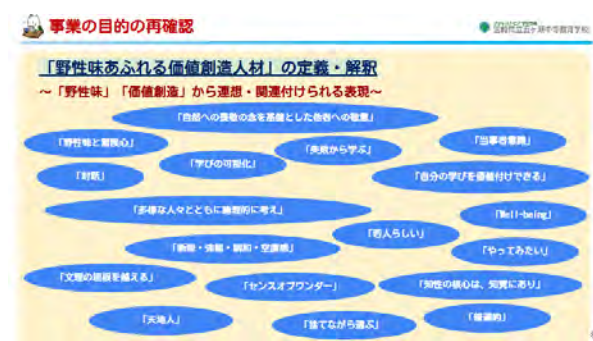


図2 「野性味」「価値創造」から連想・関連付けられる表現

令和7年1月7日（火）に、職員数名で「野性味あふれる『価値創造人材』」の定義・解釈について、1日かけて議論を行った。その際、出た意見を図2のようにまとめた。

勤務歴が長い職員から赴任したばかりの職員、コーディネーターも参加したからこそ見えてくる多角的かつ具体的な意見を出し合った。

(3) 事業の成果と課題

「野性味あふれる『価値創造人材』」の定義や解釈については結論には至らなかったが、様々な意見を出すことができた。勤務年数が異なる職員やコーディネーターを混ぜたことで、本校の不変的な理念と新たな価値について職員間で共有できたことが、大きな成果であった。

課題としては、本校で身につけさせたい「5つの力」の具体的な定義や設定理由、SGH事業終了後につくられた「志、忠、恕、妙、気」「見る力、問う力、試みる力、関連づける力、繋がる力」が学びの森の中で十分に周知されていないことが判明したため、掲示物等を活用して周知を図った。

また、「野性味あふれる『価値創造人材』」に関しては、3つの「ジチ」ができることが求められると考えるに至った。それは「自知」「自治」「自値」である。全寮制であるために、「ジチ」という言葉で表現をした。

しかし、3つの「ジチ」で良いのか、別の解釈がないのかを今後検討していきたい。

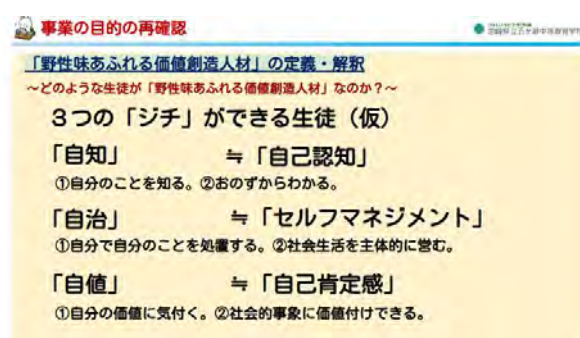


図3 どのような生徒が「野性味あふれる価値創造人材」なのか？

第2節【文理融合・教科等横断的な学びの推進に関する事業】

2-2-1 各教科における「身に付けさせたい5つの力」の観点

※新学習指導要領に記載されている「目標」に準拠して作成

	問う力	見る力	関連づける力	繋がる力	試みる力
定義	常識や現状に挑むような「なぜなのか、なぜしないのか、これをしたらどうなるか」などの問いかけを常に行う力	何かをする新しい方法についての洞察を得るために、注意深く、意図的に、一貫して、事象の詳細な部分まで観察する力	一見関連がないようにみえる問い、課題、別の領域からのアイデアをうまく関連づける力	アイデアの多様性をみがぐために、属性や思考が異なる人々とつながる力	失敗を恐れず、知的探究・物質的実験・新しい環境への適応など新しいアイデアをためす力
総合的な探究の時間	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立てることができる。	自分で立てた課題に対して、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解することができる。	探究に主体的・協働的に取り組み、互いの良さを生かすことができる。	新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとすることができる。
国語	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させることができる。	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を通して他者や社会に関わることができる。
地歴	社会に見られる課題の解決に向けて構想し、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとするすることができる。
社会・公民	事実をもとに多角的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことを議論することができる。	課題を社会的な見方・考え方をを用いて課題を追求したり、解決したりすることができる。	調査や諸資料で得た情報や社会的な事象から得た情報や概念をまとめることができる。	他者と協働的に課題を追求したり、まとめたり、学びを振り返ったり、新たな問いを見出したりできる。	学習上の課題を意欲的に解決しようとし、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察できる。
数学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に意味づけ（数学化）したり、数学的に解釈することができる。	数学的に表現・処理したりすることができる。また、一連の活動を通して、数学のよさに気づくことができる。	事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察することができる。	問題を自立的・協働的に解決する過程を遂行することができる。	粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとすることができ、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性をもつことができる。
理科	自然の事物・現象に対する概念、法則・原理を理解し、問題を見だし、科学的に探究できる。	科学的な視点で、観察・実験・考察・分析できる。	日常生活や社会との関わりの中で、科学の有用性を実感し、生徒自ら知識を獲得し、理解を深めることができる。	見通しをもって、科学的根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断できる。	身に付けた科学的な力を用いて、主体的に探究しようとするすることができる。
保健体育	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見することができる。	運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
芸術	芸術の諸活動から自己を見つめ、自ら問いを立てることができる。	感性を働かせ、創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わうことができる。	芸術の幅広い活動から、伝統や文化、生活や社会と自己とを関連づけることができる。	芸術の幅広い活動を通して、主体的・協働的に取り組み、互いの良さを認め合うことができる。	心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
英語	日常的な話題や社会的話題について、自ら主体的に課題を発見し、自ら問うことができる。	コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、相手の発言や考えを読み取るができる。	情報や考えなどの概要や要点、話し手の意図などを的確に理解し、課題解決の糸口を見つけることができる。	異なる文化や異年齢の集団の中で意見を交換することで視野を広げ、課題解決に向けて協働することができる。	自分の意見や考えをもとに、見たり聞いたりしたことについて理解を深め即興で意見を伝え合うことができる。
技術	生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定することができる。	生活や社会の中から問題を見いだすことができる。	生活や社会における事象を技術のかかわりの視点で捉えることができる。	技術についての基礎的な理解ができ、生活や社会と技術の繋がりを考えることができる。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造することができる。
家庭	生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定することができる。	生活や社会の中から問題を見いだすことができる。	生活や社会における事象を家庭科にかかわりのある視点で捉えることができる。	家庭科についての基礎的・基本的な知識が身に付き、生活的実践者を備えて生活や社会との繋がりを考えることができる。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、生活を工夫し創造することができる。

2-2-2

教務部と研究調査部の協働による教科横断型授業の通年実施

(1) 事業のねらい

教務部主導による指導力向上という教員の変容を研究対象とする研修から、社会に開かれたカリキュラム・マネジメントや教科横断など、職員の協働による生徒の変容に焦点を当てる取り組みの構築を目的とする。また研究の取り組みを常時的・日常的なものとし、年間を通じて継続できるものとするを目標とした。

(2) 事業の概要

① ポンチ絵の作成による理念の統一、目線合わせの実施

第一回運営指導委員会でのご指摘をもとに、教科横断型授業構築の理念を図示化した概念図を作成し職員研修で使用、全体の目線合わせを行なった。

② 授業改善のための先進校視察

(鹿児島県立与論高校)

定期テストを廃止し単元テストに完全移行した実績を視察し、本校の授業改善へのヒントを得た。

③ 研修シートの作成，学年ごとの研究を加速

授業研修のためのシート(後述)を作成し，学年での研究状況を全体でも共有するなどして研究の加速をおこなった。

④ 公開授業実施

ここまでの研究をもとに公開授業を行った。
詳細は次項にて掲載する。

⑤ 研修まとめ，来年度への提言の作成

教務・研究調査による通年での研究成果の集約を学年及び教科で確認した。本年度の成果を次年度以降の継続についてのビジョンを共有できた。

「文理融合・教科横断型授業」研修の経緯と来年度以降の計画

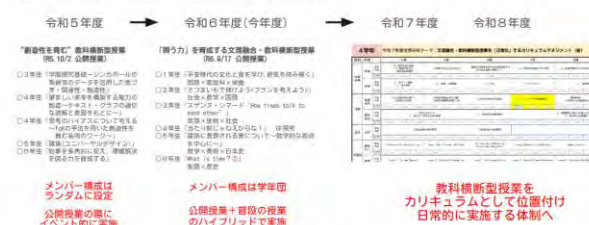


図2 職員研修スライド

(3) 事業の成果と課題

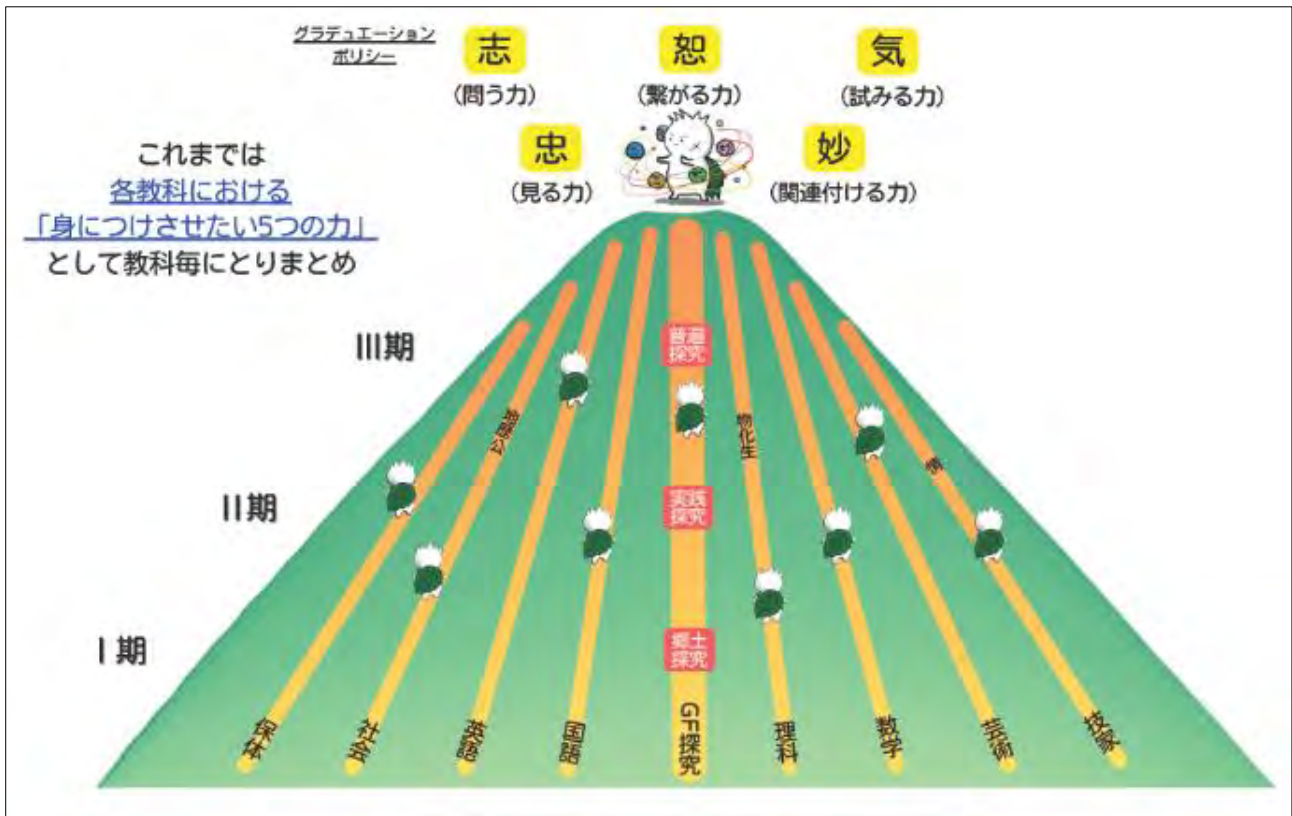
① 成果

これまで教務主導で実施してきた授業研修の目的は授業力の向上であり，変容の対象はあくまで教員自身だった。だが真に変容すべきは生徒であり，研究部との協働により教育活動全般とその基盤となるカリキュラム，また評価の方法にまで踏み込んで授業研修を構築できた実績は大きい。今後の授業研修に大きな学びを得られたと感じている。

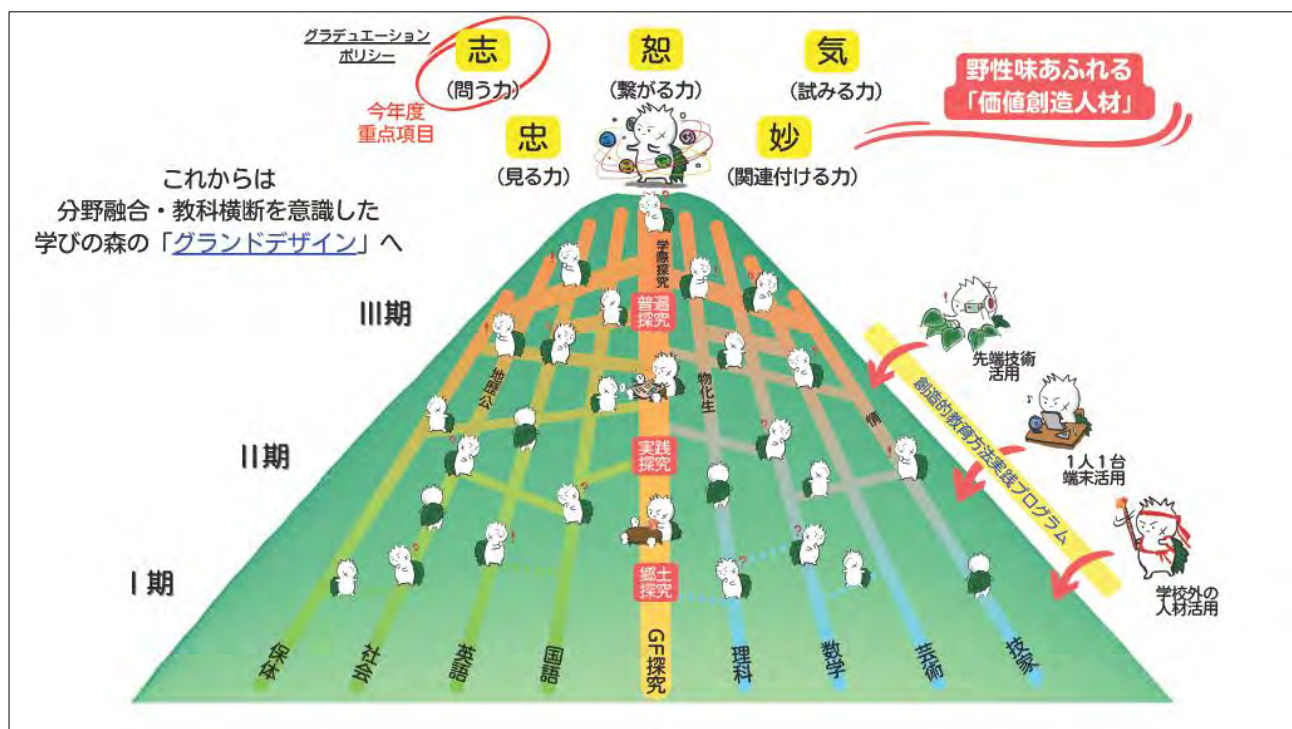
② 課題

学校行事の精選に伴い研修に割ける時間は年々確保が難しくなっている。教員の働き方改革と両立させながらいかに時間を捻出するかが今後の大きな課題の一つである。来年度は研修に対する意識を日常的な教育活動のレベルに落とし込み，無理をせず日々の継続が容易に行えるよう仕組み作りが必要である。

- 「文理融合・教科横断型授業」を促進するための目線合わせに使用したポンチ絵
 (カリキュラムアドバイザーに助言をいただきながらまなカリPTにおいて作成)



↑これまでの授業のイメージ ↓これからの授業のイメージ



2-2-3

「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業

(1) 事業のねらい

カリキュラムマネジメントの推進及び教員の授業力向上に加え、複雑化・高度化する社会課題に取り組む上で必要となる学際的な学びの実践により、生徒が新たな価値を創造しうる人材としての能力を獲得することを目的とする。

(2) 事業の概要

①日時 9月17日(火)



公開授業周知ポスター

②参加者

本事業運営指導委員の皆様、学校評議員の皆様をはじめ、県内の学校関係者の皆様や保護者など30名を超える参加をいただいた。

③公開の実際

本校では学年ごとに教科が重複しない6名の職員が配置されている。その配置を活かし、同一の指導対象に異なる視点を掛け合わせる教科横断型授業の構築を目指した。本年

度は本校のGPの一つ「問う力」の獲得を目標とした。また授業の構築に際し、前回の運営指導委員会にてご指摘いただいた「総合知」をキーワードとして全体の共通認識を図った。

学年という日常的な協議の場を作りやすい環境の中で得られたアイディアを、別添の研修シート「『問う力』を育成する文理融合・教科横断型授業」に記入し、学年の進捗状況を校内全体でも共有した。(学年ごとのシートは後掲する)

〈公開授業テーマ〉

○1年生(国語×家庭科×栄養)

「平安時代の文化と食について」

○2年生(社会×数学)

「さつまいもで儲けよう」

○3年生(英語×生物×社会)

「スザンズ・シマード“How trees talk to each other”」

○4年生(GF探究 ※全教科横断)

「当たり前じゃねえからな！」

○5年生(数学×芸術×日本史)

「建築に表現される美について」

○6年生(英語×歴史)

「What is time?」

公開授業に際しては以下のような授業デザイン案を各学年ごとに作成・配布を行った。

令和6年度 第一学年 国語科・家庭科 教科横断型授業 学習指導案	
単元名	いにしへのいよはる 「いにしへのいよはる」(『枕草子』より)
単元の目標	・音読に必要な文脈の読み取りや語彙の読み取り、古文を音読し、古典独特のリズムを通して、各時代の世界に親しむことができる。(知識・技能) ・言葉が持つ細部に気づくことにより、進んで言葉を話し、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)
単元計画	第1時「いにしへのいよはる」など現代でも使われる知識を学ぶ。 第2時「いにしへのいよはる」の知識を学ぶ。 第3時「いにしへのいよはる」を音読し、古典のリズムに親しむ。 第4～7時「平安時代の生活の姿について学ぶ」(本時3/7前時) 第8～11時「平安時代の生活の姿について学ぶ」(本時3/7前時)
時	学習活動
導入	【導入】本単元の授業の目的、流れの説明 【説明】鳥居：平安時代の生活にどのようなイメージを持っているか、発表させる
展開	①【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ②【説明】「いにしへのいよはる」の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ③【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ④【説明】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑤【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。
展開	⑥【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑦【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑧【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑨【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑩【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑪【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑫【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑬【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑭【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑮【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑯【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑰【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑱【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑲【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑳【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉑【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉒【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉓【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉔【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉕【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉖【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉗【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉘【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉙【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉚【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉛【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉜【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉝【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉞【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉟【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊱【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊲【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊳【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊴【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊵【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊶【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊷【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊸【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊹【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊺【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。
まとめ	①【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ②【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ③【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ④【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑤【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑥【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑦【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑧【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑨【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑩【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑪【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑫【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑬【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑭【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑮【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑯【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑰【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑱【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑲【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ⑳【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉑【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉒【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉓【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉔【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉕【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉖【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉗【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉘【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉙【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉚【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉛【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉜【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉝【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉞【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㉟【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊱【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊲【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊳【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊴【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊵【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊶【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊷【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊸【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊹【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。 ㊺【音読】『枕草子』の三枚の画像、古文を提示する。 古文を音読する。

公開授業デザイン案(配布用)

参観いただいた皆様からは以下のような感想が寄せられた。

“参観させていただきありがとうございました。中高6年間を通した力の育成という計画の全体図を感じることができました。教科横断や文理融合に必要なのは体系的な見通しや年間計画など、まずはシラバスを整理したり全教員で横断的な情報の共有を行うことからスタートしなければならないのだなと思いました”

“「学ぶ」とは何かを考えさせられました。生徒が自らもっと知りたい、深めたいという様子が見られ、これでこそ「学校」という印象を受けました。進学のために、就職のためにといった目的ではなく、純粋にただ学びたいという気持ちに基づいて多様に学ぶ世の中が来るかもしれないと感じさせられました。最後の6年生の意見交換会で、授業の作り方に関して、教師側が「統合」して生徒に与えるのではなく、生徒が「統合」すれば良い、という考え方が示され、今後自分が取り組むに当たってのハードルが低くなりました。自分は何年も、もっとおもしろい「保健」の授業ができないかを考え続けています。自分自身が楽しめるような授業だと良いのだろうなと考えています。たとえ1時間の授業でも、他教科の先生を巻き込んで、生徒の刺激になるようなことができれば良いかと思っています。大変参考になりました。ありがとうございました”

(3) 事業の成果と課題

①成果

全員が同じ生徒集団の教科担任として、生徒と日常的なつながりを持つ学年団での研修意義は高かった。まず全教科・全学年で研修しなければならないという固定観念から解放されたことで得られた学びは大きかった。学年団という小さな集団で日常的な会話や思いつきから生まれる多くのトライアンドエラーが生まれ、その中で自らの教科指導が他の教科の指導とどのように繋がりうるのか、その可能性を体感できたのは大きな成果である。他教科と同じ時空間を必ず共有しなければならないという固定的な考えから脱却し、生徒の内部でいかに教科指導内容を統合できるかという視点が得られた点も特筆すべき成果だと感じている。

②課題

学年という横のつながりから生まれる効果を活かしつつ、各教科の六年間の指導計画（シラバス）との関連の重要性を痛感した。来年度はGPの達成を見据えた教科シラバス作成の視点が求められる。また公開授業以降の研究が失速してしまった。学校行事との兼ね合いを考えつつ、バランスの取れた研修計画の構築が必要である。

令和6年度授業研修テーマ：「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業によるカリキュラムマネジメント										キーワード ○「WU時代」を生き抜く野性味あふれる『価値創造人材』 ○先端技術（デジタル）×体験活動（リアル） ○オンラインを活用した大学や研究機関等との連携 ○Society5.0に対応する先端的な学び										コアキーワード 「総合知」									
2学年										メンバー（教科）：★岩村（社会）・山之内（数学）・山田真（技術）・松田（英語）・平川（看護）・桑原（国語）																			
今年度テーマ										「志」：自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身に付けるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身に付けることができる。≡【問う力】 ※グラデュエーションポリシーより																			
○「問う力」に関して、2学年終了時に到達しておきたい水準										参考 2-1-2 各教科における「育てたい5つの力」の観点… 各教科シラバス																			
・授業や体験活動で学んだことに対して疑問を持つことができる。 ・自分の持った問いを説明することができる。 ・1年生時のはてな貯金を深めることができる。 ・																													
○それを踏まえて、2学年が1年間を通して実施する文理融合・教科横断型授業のテーマ・ストーリー																													
日常的な事象から疑問をもち、多角的（いろんな教科）な目線で考える授業 「それ本当なの？」																													
く「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業 実施計画																													
回	実施日	実施校時	関係する教科・科目	担当者	場所	授業テーマ・単元名	授業内容の概要	特に育てたい「5つの力」	各回の授業におけるメインクエスト	学習指導要領における「科目」>大項目>中項目	評価方法	1人1台端末の活用	活用する先端技術/ICT活用	コデ・イネーター/コワーキングの活用	活用する外部人材・機関														
例	○/○(○)	○限目	地理総合/科学と人間生活	上田/山田	G-LAB0	自然災害と防災	コンソーシアムメンバーの京都大学防災研究所・山下助教とオンラインでつなぎ、観測地震学に関する講義と質疑応答を行う	問う力	地震の連絡情報は常に正しい情報を与えているのだろうか？	「地理総合」>C持続可能な地域づくりと私たちが「科学と人間生活」>(2)人間生活の中の科学>④自然環境と自然災害について	振り返りシート (Googleドキュメント)の記入内容で評価	○	高精度地震計/ミライタッチ/Google Meet	○	京都大学 防災研究所 宮崎観測所 山下裕弘助教														
1	9/13(金)	3限	社会/数学	岩村 山之内	2年教室	さつまいもで儲けよう<付加価値の付け方>	・付加価値の例を知る ・付加価値を数式化してみる ・より高い付加価値をさつまいもにつけるアイディアを考える	見る力	付加価値とはなんだろう？			○	なし	×															
2	9/17(火)公開授業	4or5限目	社会 数学 国語	岩村 山之内 桑原	2年教室	さつまいもで儲けよう<プランを考えよう>	・アイディアを実現可能性を加味しながら具体化する ・GF探究で収穫するサツマイモを前提とする	問う力	アイディアは本当にできるのだろうか？			○	なし	×															
9/19(木)【GF探究】収穫体験																													
3	未定	未定	技術 国語 英語	桑原 山田 松田	2年教室	さつまいもで儲けよう<プレゼン資料作成>	・プランを提案する資料を作成する	試み…	どのようにしたら説得力を持たせた発表ができるだろうか？			○	なし	×															
4	10/5(木)参観日	限目	技術 国語 英語	2学年団	2年教室	さつまいもで儲けよう<発表>	・プランを発表する ・参観した保護者の方々から意見をもらう	試み…		発表内容、態度、作成資料で評価		○	なし	×															
10/24(木)【GF探究】ヤマメの採卵体験																													
9/30(月)～10/5(土)自由参観週間②																													
10/31(木)【GF探究】調理体験																													
11/6(木)【GF探究】生命と産業～土呂久現地研修～																													
3/17(月)まどめ																													

令和6年度授業研修テーマ：「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業によるカリキュラムマネジメント										キーワード ○「VUCA時代を生き抜く野性味あふれる『価値創造人材』」 ○先端技術（デジタル）×体験活動（リアル） ○オンラインを活用した大学や研究機関等との連携 ○Society5.0 に対応する先進的な学び		コアキーワード 「総合知」	
3 学年		メンバー（教科）：★渡邊（音楽）・田宮（英語）・友岡（生物）・中田（公民）・喜多（数学）											
今年度テーマ		「志」：自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身に付けるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身に付けることができる。≡【問う力】 ※グラデュエーションポリシーより											
				O「問う力」に関して、3 学年終了時に到達しておきたい水準		参考		2－1－2 各教科における「育てたい5つの力」の観点…		各教科シラバス			
		・センスオブワンダーを軸として、感動、感性の教育をもとに、自ら問いを生み出す力 ・知ることは感じることの半分も大事ではない（センスオブワンダーを言語化することとなる） ・季節ごとに散歩をし、自然の中から問いを見つける力 TOKとの連携 ・やせいみとのリンク フィールドワークを軸に 教員も生徒と一緒に探求 究極のいやしの周波数432ヘルツの研究とか 数学と音楽（親和性高い）											
		Oそれを踏まえて、3 学年が1 年間を通して実施する文理融合・教科横断型授業のテーマ・ストーリー											

センスオブワンダー！！

＜「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業 実施計画＞									
回	実施日	実施校時	関係する教科・科目	担当者	場所	授業テーマ・単元名	授業内容の概要	特に育てたい「5つの力」	各回の授業におけるメインクエスト
例	O/O(O)	O限目	地理総合/科学と人間生活	上田/山田	G-LAB0	自然災害と防災	コンソーシアムメンバーの京都大学防災研究所・山下助教とオンラインでつなぎ、観測地震学に関する講義と質疑応答を行う	「地理総合」>C持続可能な地域づくりと私たち>(1)自然環境と防災「科学と人間生活」>(2)人間生活の中の科学>④自然景観と自然災害について	学習指導要領における「科目」>大項目>中項目
1	7/11	3限目	理科/社会/英語 全部	学年団	外 木周辺	五ヶ瀬の自然を五感で感じながら問いを見つけよう	1年間を通して、季節ごとに散歩を行う。行き先は同じが良い？問いの例：	問う力	「地理総合」>C持続可能な地域づくりと私たち>(1)自然環境と防災「科学と人間生活」>(2)人間生活の中の科学>④自然景観と自然災害について
2	6/26	2限目	道徳	渡邊	3年教室	自然への畏敬の念から共生社会のあり方	新燃岳などの身近な自然を題材にした内容を取り扱い、自然がどのように協力して存在しているかについて考察する。	見る力	地震の速報情報は常に正しい情報を与えているのだろうか？
3	7/1	6限目	英語	田宮	3年教室	TED TALK	9月の公開授業に向けて、カナダの森林科学者であるスザンヌマード博士のTED TALKを視聴し、そこから問いを立てるワーク、対話を行う。	問う力	屋久島の自然、とくに題材として扱われた屋久杉について
4	7/3	2限目	道徳	中田	3年教室	自然への畏敬の念	レイチェルカーゾン「センスオブワンダー」を翻訳した上瀬麗子さんのインタビューから	問う力	延期
7/16(火)～7/19(金)自由参観週間①									
8/23(金)職員研修									
5	8/28 (水)	2限目	道徳	学年団	道徳	自然への畏敬の念	自然への畏敬の念から共生社会のあり方について考える。	見る力	7月に済み この部分は調整中
6	8/29(木)	7限目	理科	友岡、田宮	生物室	森林の働きと菌類の生態系が森林に及ぼす影響	スザンヌ・シマード博士が提唱している、森林に存在するネットワークについて、生物学的な視点からアプローチするための授業を行う。	問う力	
9/5(木)職員研修									
7	9/11(水)	4限目	英語	田宮	3年教室	TED TALK	導入としてTED TALKを題材に扱うので、そのために必要な語彙や概念を学び、下地を作るための授業を行う。	問う力	英語>聞くこと
8	9/12(木)	1限目	音楽	渡邊	音楽室	ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」	音楽鑑賞の中で自然の音や表現などについて触れ、自然に対する畏敬の念や崇高さをベートーヴェンが表現したことを感じ取る。これまでの授業で学んだことと関連付けて鑑賞を行う。	関連…	ベートーヴェンはなぜこのような曲を書いたのか
9	9/12(木)	3限目	理科/社会/英語 全部	学年団	外 木周辺	五ヶ瀬の自然を五感で感じながら問いを見つけよう(夏～秋)	1年間を通して、季節ごとに散歩を行う。今回は地衣類に注目させる。雨でも実施。	見る力	
10	9/17(火)公開授業	4or5限目	英語/生物/社会	学年団	3年教室	スザンヌ・シマード “How trees talk to each other”	スザンヌ・シマード “How trees talk to each other” を題材に気候変動の中で持続可能な社会のあり方、人の生き方について考えさせる	問う力	英語>内容：(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに關する事項 (イ)日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いて読みだりして得られた情報や意見を、選択したり抽出したりするなどして活用し、至したり重いたりして事象や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

1 1	10/3 (木)	限目	学活	学年団	3年教室	まとめ	願わくば課題研究のトピックとして森林の機能に着目した生徒の取り組みなどを紹介、深める機会になれば良い。学際研究基礎の中で学びを実践するような機会がないだろうか。カナダ西部の森林の様子が五ヶ瀬の森と似ていることから、簡易的な実験や仮説の検証が可能ではないかと考えている。	関連…	
1 2	1 1 月	限目	数学	喜多	3年教室	センスオブワンダー関連	森林に存在する音の周波数と森の癒し効果について数学と音楽でコラボできないか 周波数432について	試み…	
1 3	1 2 月	限目	英語	田宮	3年教室	持続可能な社会のあり方を自然から学ぶ	センスオブワンダーを感じる他の題材を紹介しつつ、その中から人間が学べることにについて発表させる	関連…	
3/17(月)まとめ									

令和6年度授業研修テーマ：「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業によるカリキュラムマネジメント										キーワード ○「WCA時代を生き抜く野性味あふれる『価値創造人材』」 ○先端技術（デジタル）×体験活動（リアル） ○オンラインを活用した大学や研究機関等との連携 ○Society5.0に対応する先端的な学び										コアキーワード 「総合知」									
4学年										メンバー（教科）：★増田（保健体育）・鈴木圭（国語）・門田（英語）・松下（養護）・山本（数学）																			
今年度テーマ										「志」：自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身に付けるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身に付けることができる。≡【問う力】※グラデュエーションポリシーより																			
○「問う力」に関して、4学年終了時に到達しておきたい水準										参考 ■ 2－1－2 各教科における「育てたい5つの力」の観点… ■ 各教科シラバス																			
・見つけた問いに対して実生活において実践を行い、新たな問いを発見する力 ・問うためには見る力が必要 ・「当たり前」に対して問いを持つ力 ・グラデーションな学年、ジブンゴトカ																													
○それを踏まえて、4学年が1年間を通して実施する文理融合・教科横断型授業のテーマ・ストーリー																													
当たり前じゃねえからな！																													
＜「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業 実施計画＞																													
回	実施日	実施校時	関係する教科・科目	担当者	場所	授業テーマ・単元名	授業内容の概要	特に育てたい「5つの力」	各回の授業におけるメインクエスト	学習指導要領における「科目」＞大項目＞中項目	評価方法	1人1台端末の活用	活用する先端技術/ICT活用	3Dプリンタ/3Dプリンタの活用	活用する外部人材・機関														
例	O/O(O)	O限目	地理総合/科学と人間生活	上田/山田	G-L480	自然災害と防災	コンソーシアムメンバーの京都大学防災研究所・山下助教とオンラインでつなぎ、観測地震学に関する講義と質疑応答を行う	問う力	地震の速報情報は特に正しい情報と（日常生活の中の科学）＞④自然災害と自然災害について	振返りシート（Googleドキュメント）の記入内容で評価	○	○	高精度地震計/ミライタッチ/Google Meet	○	京都大学 防災研究所 宮崎観測所 山下亮助教														
1	4/29(月)	限目	国語/英語	鈴木圭/門田	4A		■【古典と注釈】古語を英語に翻訳してみる	問う力				○				国語×英語													
	6/6(木)	4～6限目	GF探究	学年団	4A教室	Gokase-Tok①	Tokを通して物事をゼロから考え直し、本質を考え抜く思考スキルを学ぶ。【知識】とは何かについて学ぶとともに、ワークを通して知識のパターンを考える。	問う力	【知識】とは何か？			○		×															
3	6月下旬	4限目	数学	山本	4A教室	美しいものは数式化できる	GF探究「Gokase-Tok」の一貫として、黄金比、フィボナッチ数列について知り、美しいものは数式化できるのか、数式化できるものは美しいのかについて主張を考える。	問う力	美しいものは数式化できるのだろうか？			○		×															
	6/27(木)	4～6限目	GF探究	学年団	4A教室	Gokase-Tok②	知識の枠組みについて知るとともに、問い立ての手法を学ぶ。また、課題研究の課題設定等で活用できる思考スキルをTokを通して身につける。	問う力	様々な「問い」を立てたとき、それらの問いの背景は何かについて考える。			○		×															
	7/12(金)	2限目	言語文化	鈴木圭	図書室	「漢文入門一・二、故事成語」	漢文入門で得た、知識・技能を活用して、故事成語の出典を調べることで、故事成語成立の背景や時代背景を理解し、解釈を深める	問う力		授業の目標（知識及び技能） (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けること。我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の交流、判断力、表現力、基礎力等） 8.基礎力、判断力、表現力等）	○	○	Goog leclassroom Goog ledrive	×		世界史													
7/16(火)～7/19(金)自由参観週間①																													
8/23(金)職員研修																													
9/5(木)職員研修																													
6	9/17(火)公開授業	4or5限目	GF探究	学年団	4A	当たり前じゃねえからな！	～問いに問いを投げかけ問いに迫る～ 個人やグループ活動で問づくりを行い、その問や解に気づいて「当たり前前じゃねえからな！」をテーマに批判的思考を行う。	問う力	文理融合・教科横断型授業 総合探究＞第1(2)＞第2 3 (6)ア 変遷のために、なぜ「問い」が必要なのだろうか？	○	○	Goog le Slide																	
8	9月下旬	限目	保健	増田	4A	喫煙と健康	喫煙率の低下の背景は？女性の喫煙率が上がっている背景は？を複数のグラフを見て問うていく。	問う力	これからの喫煙についての知識はどうなっていくのだろうか。	保護＞現代社会と健康＞喫煙と健康		○		×															
	1月		言語文化	鈴木圭	4A	「作品から歴史的背景を探る」	「十八史略」から「管絃之交」「鶏口牛後」「先従後始」を教材とし、教科書に掲載されていない前後の文章や、春秋・戦国時代を背景を踏まえて、背景を理解しているからこそ際立つ表現を言語化する。	関連…	背景を知っているからこそ面白い表現は？	(知識及び技能) (2)イ 〔思考力・判断力・表現力〕 B (1)エ (2)イ	○		Goog leslide Goog leスプレッドシート	×	世界史														
	1月		現代の国語	鈴木圭	4A	「話すトレーニング～説得力のある話し方～」	「時間と自由の関係について」内山節【思想】「時を編む人間」田口茂【思想】「浪費を妨げる社会」國分功一郎【社会】「他者を理解するということ」齋田清一【思想】この4教材を踏まえて、自分の考えをまとめスピーチをする。	関連…	複数資料を踏まえ、自らの意見を作り、他者に伝えるスピーチは？	(知識及び技能) (1)イ 〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1)イ(2)ア	○		Goog ledocument Goog ledrive	×	総合的な探究の時間 日本史 世界史 倫理														
								関連…				○		×															
								関連…				○																	
9/30(月)～10/5(土)自由参観週間②																													
3/17(月)まとめ																													

令和6年度授業研修テーマ：「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業によるカリキュラムマネジメント										コアキーワード 「総合知」									
5学年										ワークロード ○NUCA時代を生きた若く野性あふれる『権威創造人材』 ○先端技術（デジタル）×体験活動（リアル） ○オンラインを活用した大学や研究機関等との連携 ○Sciety5.0 に対応する先進的な学び									
今年度テーマ										「志」：自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身に付けるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身に付けることができる。≡【問う力】 ※グラデュエーションポリシーより									
○「問う力」に関して、5学年終了時に到達しておきたい水準										参考 ■ 2－1－2 各教科における「育てたい5つの力」の観点… ■ 各教科シラバス									
・社会や世の中の出来事に目を向け、常識、現状や社会の仕組みを理解する。⇨実態などとのギャップから疑問を出す。 ・批判的思考力 ・様々な情報、データ、資料などを読み取る力。⇨他の視点、根拠となる資料の扱い方、多様な考えなど。⇨新たな問い。 ・普遍化																			
○それを踏まえて、5学年が1年間を通して実施する文理融合・教科横断型授業のテーマ・ストーリー																			
真理をめざす～「美」に対する考察をもとに																			
く「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業 実施計画①																			
回	実施日	実施校時	関係する教科・科目	担当者	場所	授業テーマ・単元名	授業内容の概要	特に育てたい「5つの力」	各回の授業におけるメインクエスト	学習指導要領における「科目」＞大項目＞中項目	評価方法	1人1台端末の活用	活用する先端技術/ICT活用	活用する外部人材・機関					
例	O/O(O)	○限目	地理総合/科学と人間生活	上田/山田	G-L480	自然災害と防災	コンソーシアムメンバーの京都大学防災研究所・山下助教とオンラインでつなぎ、維新地産学に関する講義と質疑応答を行う	問う力	地震の速報情報は常に正しい情報を与えているのだろうか？	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○	○	高精度地震計/ミライタッチ/Google Meet	京都大学 防災研究所 登崎 観測所 山下祐高助教					
1	4/29(月)	1限目	国語/日本史探究	猿渡/高橋	5A教室	宇治拾遺物語読解	○的確な文章読解をもとに人物像を把握する ○認知バイアスを解するゆがみの原因だと知る ○複数教科の学術的根拠を統合して文章読解に当たる姿勢を身につける	問う力	主人公「保昌」とは何者か？	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○	○	Google Classroom						
2	6月	限目	コミ英Ⅱ	落合	5B教室	伝統家屋の多様性	伝統家屋の多様性は自然環境と使用される地元資源によって生まれる。	見る力	伝統家屋の多様性を生むものは何だろうか。										
3	6月	限目	コミ英Ⅱ	落合	5B教室	伝統家屋の多様性	住宅の機能を追求するために世界中の住居が試通ってきている。一方で伝統的な家屋の価値を認め、保全し観光に利用する動きもある。	問う力	未来において、住居の様式はどのように変化するだろうか。										
4	5～6月	限目	美術Ⅱ	徳永	美術室	ロゴマークデザイン	デザインの重要な機能である「伝達」について、身の回りにあふれているロゴマークから学ぶ。また、自身のオリジナルのロゴマークをつくる。	見る力	形、色が持つ伝える力とは、どんなものなのか？	作品、合評会での発表	○								
7/16(火)～7/19(金)自由参観週間①																			
5	7月	限目	数学	黒木	5B教室	漸化式	与えられた漸化式から数列の極限を求める。極限が収束するものと発散するものの特徴を確認する。	問う力	発散する数列の極限で、隣項間の比はシンブルになるのだろうか。										
6		限目	国語	猿渡	5A教室	グラフ読解の手法をもとに文章を解釈する	客観的データを論拠に論理構築された文章を解釈し筆者の主張を適切に理解するとともに、別のデータを収集するなどとしてより適切な考察を自ら構築する。	試み…		○									
7		3限目	保健	吉岡	5A教室	8月26日 健康的な職業生活 9月31日 大気汚染と健康 9月4日 水質汚濁・土壌汚染と健康													
8	7月	限目	国語	猿渡	全	「花は盛りに」『徒然草』	日本人の美的感覚に大きな影響を与えた兼好の思想を学び、それらが現在や自己にとのようにつながっているのかを思考する。	問う力	日本文化形成に強い影響を持つ漢詩・漢文の中でも最も洗練された近体詩を学び、美に対する視点や表現を学ぶ。	定期検査	○								
9	8月	限目	国語	猿渡	全	「唐詩」		関連…		定期検査	○								
9/5(木)職員研修																			
10	9月	限目	日本史探究	高橋	図書室	安土・桃山時代（織豊政権）江戸幕府の成立	織田信長と他の戦国大名との政策の違い、豊臣秀吉と幕府政策、全国統一政策の誕生の意義、朝鮮侵略の目的、将軍と大名の主従関係、参勤交代の目的などを確認すること、中世から近世への移行について考える。桃山文化の建築物について特徴などを理解する。	関連…	なぜ、「中世」と「近世」の時代区分がこの時期なのか。織豊政権、江戸幕府の成立は、日本史上どのような意義があるのか。	授業プリントへの記述（予習）、定期Ⅲ	○		Google Classroom	×					
11	9月	限目	数学	黒木	5A教室	フィボナッチ数列（漸化式）黄金比・白银比	世間的に美しいと言われている数列や比の特徴を理解する。黄金比と白银比の違いと応用法を知る。	問う力	フィボナッチ数列の比が一定の値に近づくのはなぜだろうか。	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○		Google Classroom	×					
12	9月	限目	国語	猿渡	全	ミロのヴィーナス	目に見えない事象が喚起する「美」の存在を学び、世界を捉える新たな視点を得る。	見る力	未完成・不完全なものに對し感じる美しさとは何か。	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○								
13	9/17(火)公開授業	4限目	数学／美術／日本史探究	黒木／徳永／高橋	5A教室	建築に表現される美について～数学的な視点を中心に～	黄金比や白银比といった建築として美しいとされているものを数学的に表現した場合、美しく感じることができるか。	問う力	美しさとは、完璧（完全）なものに与えられるのか。	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○		Google Classroom	×					
14	9/20(金)	2限目	数学	黒木	5B教室	ネイピア数e（オイラーの公式）	ネイピア数の定義（極限）を理解し、世界で一番美しいと言われるオイラーの公式との関わりに驚ける。	察が…	極限の近似値としての値に美しさを感じ取ることができるか。	振返りシート（Googleドキュメント）の記述内容で評価	○		Google Classroom	×					
9/30(月)～10/5(土)自由参観週間②																			
15		3限目	保健	吉岡	5A教室	10/22 環境と健康にかかわる対策 11/2 ごみの処理と上下水道の整備 11/11 食品の安全性 11/18 食品衛生にかかわる活動 11/28 保健サービスとその活用 12/8 感染症の予防とその活用 12/9 さまざまな保健活動や社会的対策 12/16 健康に関する環境づくりと社会参加													
	10月	5,6限目	美術	徳永	美術室	「HAPPYな壁」触って楽しむ芸術	ユニバーサルデザインの観点から、明星視覚支援学校と連携し、視覚に障害を持っている方にも楽しめる芸術のあり方を考える。	試み…	15センチ角の正方形の上に、触覚で楽しむ作品を独創的に制作できるか。										
3/17(月)まとめ																			

令和6年度授業研修テーマ：「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業によるカリキュラムマネジメント															キーワード O「NVA時代を生ま抜く野性味あふれる『価値創造人材』」 O先端技術（デジタル）×体験活動（リアル） Oオンラインを活用した大学や研究機関等との連携 OSociety5.0 に対応する先進的な学び															コアキーワード 「総合知」														
6学年															メンバー（教科）：鈴木哲（数学）・吉富（化学）・飯山（世界史）・★後藤（英語）・山田和（物理）・藤高（書道）																													
今年度テーマ															「志」：自らの進路実現に必要な確かな知識・技能を身に付けるとともに、自ら学び、自らを育てる自己教育力を身に付けることができる。≡【問う力】 ※グラデュエーションポリシーより																													
O「問う力」に関して、6学年終了時に到達しておきたい水準															参考 2－1－2 各教科における「育てたい5つの力」の観点…															各教科シラバス														
・問い続けて、普遍的な問いを導き出すことができる（卒業後も死ぬまで。学びの場の内外で） ・自らのキャリア形成・実現について、常に自問自答を繰り返すことで、より良く生きること(Well-Being)につなげることができる ・社会の諸問題について問いを立て、自分ごと化することで、個人や社会の問題解決に物怖じせず臨むことができる ・チームワン！for 26!!（テーマは何でも良い、教員の伴走、ナナメの関係）																																												
Oそれを踏まえて、6学年が1年間を通して実施する文理融合・教科横断型授業のテーマ・ストーリー																																												
「WHAT ARE YOU? ～あなたは何を見つめますか、あなたは何者ですか～」																																												
く「問う力」を育成する文理融合・教科横断型授業 実施計画																																												
回	実施日	実施校時	関係する教科・科目	担当者	場所	授業テーマ・単元名	授業内容の概要	特に育てたい「5つの力」	各回の授業におけるメインクエスチョン	学習指導要領における「科目」>大項目>中項目	評価方法	1人1台端末の活用	活用する先端技術/ICT活用	活用する外部人材・機関																														
例	O/O(O)	O限目	地理総合/科学と人間生活	上田/山田	G-L480	自然災害と防災	コンソーシアムメンバーの京都大学防災研究所・山下助教とオンラインでつなぎ、観測地震学に関する講義と質疑応答を行う ・物理現象（表面張力・流体力学・多孔質構造等）とそこに息いだせる美意識について理解し、その魅力について英語で発信することができる	問う力	地震の速報情報は常に正しい情報を与えているのだろうか？	「地理総合」>C持続可能な地域づくりと私たちの生活>(1)自然環境と防災(2)人間生活の中の科学>④自然環境と自然災害について	振返りシート（Googleドキュメント）の記入内容で評価	O	高精度地震計/ミライタッチ/Google Meet	京都大学 防災研究所 宮崎観測所 山下祐典助教																														
1		限目	英語/物理	後藤/山田		What is beauty?①		関連…				O																																
2		限目	英語/化学	後藤/吉富		What is beauty?②		関連…				O																																
3		限目	英語/数学	後藤/鈴木哲		What is beauty?③		関連…				O																																
7/16(火)～7/19(金)自由参観週間①																																												
8/23(金)職員研修																																												
4		限目	英語/書道	後藤/藤高		What is ART? ①																																						
5		限目		後藤/		What is ART? ②																																						
9/5(木)職員研修																																												
6	9/17(火)	4限目	英語/歴史	後藤		What is time? ①	・R-T Timeの概念の導入 ・新出単語の導入 ・イントロダクション	関連…	時間の捉え方の違いは何に起因するのか？	「英語コミュニケーションⅢ」>ウ「読むこと」>イ 社会的な課題について、複数の論証文や記述文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や要旨、詳細をまとめる活動。 また、まとめた内容を基に解決策を考え、話し合いを行い、話し合いを行う活動。		×																																
7	9/17(火)公開授業	5限目	英語/歴史	後藤/飯山		What is time? ②	・時間の捉え方の分類（単一的、複線的）について理解を深め、世界の各地域における時間観の捉え方や歴史的現象との違いについて考察を深めることができる	問う力	時間の捉え方の違いは何に起因するのか？	「英語コミュニケーションⅢ」>ウ「読むこと」>イ 社会的な課題について、複数の論証文や記述文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や要旨、詳細をまとめる活動。 また、まとめた内容を基に解決策を考え、話し合いを行い、話し合いを行う活動。	Spreadsheetの記入内容で評価	O		時間の感覚について NタイムPタイム 文化の違い 日本の中でNタイムPタイムがあるのか。																														
9/30(月)～10/5(土)自由参観週間②																																												
3/17(月)まとめ																																												

2-3-1 福岡県立糸島高校との交流 『価値創造フォーラム』

(1) 事業のねらい

- ①メタバースでこれまでにない新しい越境体験
- ②糸島と五ヶ瀬，両地域の魅力再発見
- ③対話による探究テーマのブラッシュアップ

本事業においては，メタバース上に遠隔地の生徒同士だけでなく，コンソーシアムメンバーや運営指導委員が集まり，対話をしながら問いを出し，地域や探究だけでなく自らのものの見方や考え方に対して新たな価値を創造できる機会とすることを目的としている。

(2) 事業の概要

日時 令和6年11月6日(水) 9:35～15:15

場所 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

参加者 101名

糸島高校(午前のみ) 2年生(30名)

本校 3年生(37名)，4年生(34名)

実施方法 メタバース (DOOR)

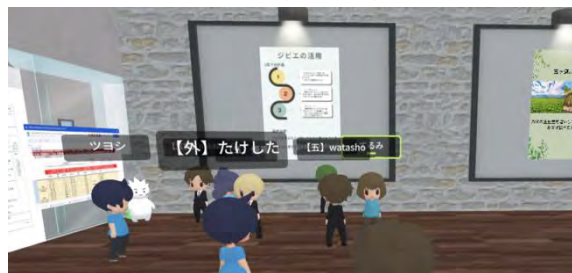


図1 実際の様子

【午前】糸島高校との地域魅力発表

メタバース上で，遠隔地の生徒同士が，アバターを介した自己紹介や学校・地域の魅力紹介，交流活動を実施した。各ルーム内のファシリテーターは，各ルーム「担当職員」が行い，基本的にアバターを介した音声による意見交換（チャット機能は副次的に活用）を行った。

【午後】コンソーシアムメンバーと「探究」をテーマにライトニングトーク

メタバース上で，本校生徒同士ならびに創P事業に関わっていただいている専門家と，「探究」をテーマに，アバターを介したライトニングトークを実施した。前半は，生徒の探究発表に対して，コンソーシアムメンバーや参加者

(生徒や保護者等)から質問やアイデアをいただき，後半は，コンソーシアムメンバーによる「探究」に関するライトニングトークを実施し，生徒たちに探究に対するものの見方や考え方を拡張する機会とした。

〈コンソーシアムメンバーのトークテーマ〉

中山隆様(宮崎大学)

「『自分を見つめ直す』ことから始まる，社会課題解決の道～質的心理学を活用した探究・研究」

野口祐子様(IGS株式会社)

「自分のキャリアの築き方」

竹下伸一様

「どう伝えるか?から始まった私の山腹用水路研究」

(3) 事業の成果と課題

本事業の成果として，これまで Zoom や Microsoft Teams 等のオンラインコミュニケーションツールで実施していた生徒交流をメタバース上で実施できたことにあると考える。これまではスライド発表を踏まえて意見交換をしていたが，DOOR ではメタバース空間自体を学校やそれぞれの地域における魅力的な場所とすることで，自然と互いに質問し合う状態を創ることができていた。以下は生徒の感想の一部である。

- ・機械は苦手だけど意外とできた。先輩の発表も見ることができ，質問したりされたりする中でたくさんの問を見つけることができたし，普段は質問とかは緊張してできないけど今回はメタバースだったのでたくさん質問できた。
- ・メタバース上で発表するのは初めてでした。対面しての発表は緊張してしまうので緊張せずに言えるのはメタバースでした。それに比べて質問はいつもより音声でたくさんすることができました。対面だと手を挙げるまでに緊張しますが，メタバースだとマイクボタンを押すだけなので今回たくさん質問することができました。私が使っていて不安だったのは聞いている人のリアクションがわからないので聞こえてるかなとか私の発表大丈夫かなと不安なところもありました。

メタバース上であれば，アバターを介してコミュニケーションをとるため，今回のように初対面の相手よりも発表をしたり質問をしたりすることへのハードルが下がることがわかった。しかしながら，発表時も含めて相手の反応が把握しにくいことが課題として挙げられた。

2-3-2

九州大学・京都大学防災研究所・日南高校との協働研究

教養講座『先端技術(デジタル)×現地調査(リアル)で探究する宮崎の防災』

(1) 事業のねらい

本校の創P事業において軸となる「文理融合・教科等横断的な学びの推進」「オンラインを活用した大学や研究機関との連携」「先端技術(デジタル)と体験活動(リアル)との融合」の3つの要素を具現化するための取組みとして、毎週水曜日 17:00～18:00 に実施している課外活動「教養講座」の時間を活用して、宮崎県内の地震・津波防災に関して、「先端技術(デジタル)」×「現地調査(リアル)」や「防災心理学(文系)」×「観測地震学(理系)」等の分野横断を意識した生徒主体の活動を年間通じて実施した。

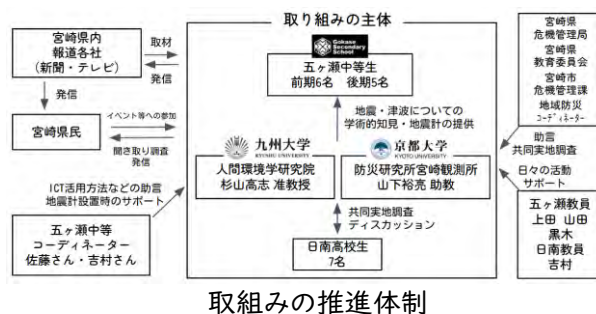
五ヶ瀬中等教育学校の生徒は県下一円から集まることから、本校の生徒達が、宮崎県内の防災に関する課題を「自分ゴト」として捉えて、それを解決するために積極的に取組むことで、地域の「防災力」を直接的に高めることと同時に、その様子をマスメディアを通じて積極的に発信することで、県民の防災意識向上につなげるねらいがある。

(2) 事業の概要

①コンソーシアム等との協働

本講座では、文理融合型の深い学びを実践するため、コンソーシアムメンバーのうち、「防災心理学」を専門とされる九州大学人間環境学研究院杉山高志准教授との協働により、津波避難訓練アプリ『逃げトレ』を活用した実践的避難訓練を県内沿岸部において複数回実施した他、「観測地震学」を専門とされる京都大学防災研究所宮崎観測所山下裕亮助教との協働により、本校の校内に高精度地震計を設置し、常時観測活動を行った。

また、多様な属性・年齢の者同士が協働することによって「野性味あるれる『価値創造人材』」が育成され则认为、本校1～5年生11名と、遠隔地に位置する宮崎県立日南高校の生徒7名、ならびに大学研究者が、オンライン等を活用しながらディスカッションを行う場面を多く設定した。



②令和6年度の活動

主なフィールドは、県内有数の観光地である宮崎市青島地区とし、令和6年度は3回の現地調査を実施した。そのうち令和6年8月8日にフィールド調査を実施した際には、初めての南海トラフ地震臨時情報が発表された日向灘地震(M7.1)に、震源地に最も近い位置で遭遇し、本校生徒が率先避難者として周りを巻き込みながら、高台への避難を実行した。その翌日8月9日には、地域住民への緊急聞き取り調査を実施し、大変貴重なデータを得ることができた。またそれらの活動の成果を、日本地理学会や市民向けシンポジウム等において発表したり、行政関係者を交えたワークショップにおいて報告を行ったことで、実際に地域の課題が改善に向かいつつある。

◎「リアル」×「デジタル」をキーワードに、沿岸部においてフィールドワークを複数回実施



沿岸部におけるフィールドワーク

◎フィールドワーク中に令和6年8月8日 M7.1 の日向灘を震源とする地震に遭遇し率先避難者として行動



本校生徒が率先避難者として観光客や地域住民を巻き込みながら避難



高台の避難場所の混雑と夏の暑さ・備蓄水分不足
→実際に地震に遭遇し避難をしたことで、避難訓練だけでは発見し得なかった課題が次々と明らかに

◎日向灘地震発生翌日の地域住民への緊急聞き取り調査



青島地区の地域住民約50名に聞き取り調査
→実際に高台避難した人の割合等、このタイミングでしか得ることができないリアルなデータを取得

R6.8/8 日向灘地震に遭遇／緊急聞き取り調査

◎行政機関・まちづくり団体との対話・ワークショップ、市民向けシンポジウムにおける活動報告



行政機関・まちづくり団体への活動成果の報告



行政機関との路面への避難誘導案内の設置場所検討 市民向けシンポジウムにおける成果報告・啓発活動

◎マスメディアを活用した県民への情報発信

宮崎日日新聞 (2024/2/29付) アプリ使い高台避難 五ヶ瀬中学校、日南高生 と訓練 津波想定 専門家が指導	宮崎日日新聞 (2024/8/26付) 防災学習中揺れ 「備え必要」実感	宮崎日日新聞 (2024/9/7付) 避難経験から課題検証 青島で被災 90人聞き取り 五ヶ瀬中学校生 公開へ
--	---	---

新聞による報道



テレビ・インターネットメディアによる報道

地域住民・行政機関等との協働／マスメディア報道

③学会等における発表／受賞記録

- 日本地理学会 2024 年春季学術大会高校生
ポスターセッション「会長賞」(全国 1 位)
- 日本地理学会 2024 年秋季学術大会高校生
ポスターセッション「理事長賞」(全国 2 位)
- 令和 6 年度 世界に羽ばたく高校生の成果発表
会(九州大学主催)「最優秀賞」
- 「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本
- 2024 年度防災教育チャレンジプラン(内閣府等
主催)「防災教育大賞」

(3) 事業の成果と課題

中高生が主体の活動でありながら、学术界との連携によって、「防災心理学」と「観測地震学」という文理双方の専門的な知見を生かしたことや、机上・デジタル上の分析のみに留まらず、実際に課題がある地域に赴いて、最先端のツールを活用した実践的避難訓練を実施したり、地域住民や行政機関等とも対話を重ねながら課題を解決していくプロセスを生徒自身に体験させたこと、また、一過性のイベントに終わらず、学校の課外活動として年間を通じた継続的な活動としたこと、などが本活動のチャレンジであった。

そのチャレンジを日々継続していたことで、偶然ではあるもののフィールドワーク中の 8/8 に日向灘地震に遭遇することとなり、被害が出なかったことも幸いして、それが学びをより深化させる大きなきっかけとなった。それまでの活動において、地震発生直後の緊急情報は誤差が大きいことを学んでいた点や、「逃げトレ」を活用した避難訓練を複数回繰り返し実施し、危険箇所や望ましい避難ルートを予め熟知していた点などが功を奏し、生徒自身が率先避難者として適切な行動を取ることができた点は、まさに学習の成果が行動としてアウトプットされた場面であり、生徒の自信やその後の学びへの意欲向上にもつながった。

実際にそのような行動を取ることができた生徒の様子が、県内でも大きく報道されたことで、青島の地域住民ひいては県民全体の意識の変容にも着実に繋がっている他、活動の意義が広く伝わったことで、生徒達の意見が説得力を持つようになり、現在実際に行政機関やまちづくり団体と避難誘導看板の改善点等について議論できるフェーズに至っていることは、本活動の大きな成果である。

2-3-3

京都府立洛北高校、総合地球環境学研究所との協働

(1) 事業のねらい

5年生が研修旅行に能動的な姿勢で臨めるよう研修の内容に関する問いを立て、課題意識を持たせる。また、地球研という日本最先端の研究所、研究者を肌で感じることで自身の課題探究についてブラッシュアップさせる機会とする。

(2) 事業の概要

① 計画

- 9月11～13日 GIAHS 地域調べ（個人）
- 9月17～19日 問いテーマ決め
- 9月24～26日 問いテーマ決め、テーマグループ分け
- 9月27日 問いの共有
- 9月30日～10月3日
研修旅行（地球研見学、琵琶湖研修を含む）
- 10月4日 問い検証まとめ
- 11月4日 地球研連携校交流会（オンライン）
- 2月24日 地球研連携校交流会（オンライン）

②内容

- ア 研修旅行事前・事後研修
 - ・ GIAHS 地域調べ、問いテーマ決め。
 - ・ 6グループ（食、政治・経済、歴史・伝統、生物・生態系・農業・漁業、自然・環境、観光）に分かれ、問い立て、仮説立て、検証をおこなった。問いは「思考のための問い」、「理解のための問い」に分けた。研修旅行の翌日には、事後研修を行った。
- イ 地球研見学（研修旅行）
 - ・ 研修旅行2日目に地球研を見学した。
 - ・ 所内見学、所長レクチャー、質疑応答。
 - ・ 嶋田さんから、探究や琵琶湖の研究についてのレクチャーも受けた。
- ウ 地球研連携校交流会（オンライン）
 - ・ オンラインで両校の代表生徒が研究を発表し、意見交換を行った。

- ・ 11月は、浅利美鈴教授、2月嶋田さんに参加してもらい、助言をもらった。



(3) 事業の成果と課題

①研修旅行事前・事後研修

本年度は、昨年度と異なり、基本的には事前・事後研修とも本校職員が中心に行った。事前のオンライン研修は、滋賀県農政課の西本さんに依頼した。問いを持って臨むことで、能動的な姿勢で取り組めたが、事前・事後研修については、今後、方法などの検討が必要である。

②地球研見学（研修旅行）

施設内を見学させてもらうとともに、所長と嶋田さんのレクチャーにより、自身の探究について深く見つめ直すことができた。生徒からは、嶋田さん自身の研究、研究者や研究機関についての質問も出て、前向きに研修を受けていた。



③地球研連携校交流会（オンライン）

洛北高校とオンラインで研究発表、意見交換を実施した。2回とも各校の代表生徒が Zoom でそれぞれの研究を発表した。浅利さん、嶋田さんにも参加していただき、助言をいただけたため、生徒は刺激を受けていた。次年度はメタバースなどを利用した交流会にしたいと考えている。

2-3-4 宮崎大学との協働研究

世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」の 山腹用水路に関する研究

(1) 事業のねらい

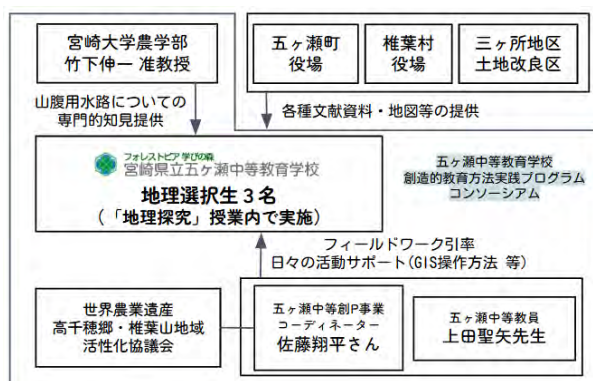
世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」に認定されている地域内に位置する五ヶ瀬中等教育学校の生徒が、特徴的な棚田等のランドスケープを生み出す基となっている「山腹用水路」について環境工学等の知見に基づいた探究活動を行い、その成果を発信することで、それらの価値の再認識と将来世代への継承に寄与する。

(2) 事業の概要

① コンソーシアム・CN等との協働体制

5学年「地理探究」授業における探究活動の一環として、創P事業コンソーシアムメンバーである宮崎大学農学部竹下伸一准教授、世界農業遺産活性化協議会との協働により、「山腹用水路」に関する研究を年間通じて実施した。「オンラインを活用した外部機関等との協働」を推進するという創P事業の趣旨を踏まえ、生徒・教員・コンソーシアムメンバー・コーディネーターが参加するチャットスペースを日常的に運用し、活動の促進を図った。

また、フィールドワークの際には、コーディネーターの佐藤翔平氏に引率のサポートをしていただいた他、教育課程外の特別活動として実施している「GIAHS アカデミー」において得られた知見・成果を、教育課程内の「地理探究」授業において生かすための工夫を行った。



取組みの推進体制

※地理歴史科「地理探究」の「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」>「(1)持続可能な国土像の探究」単元の一環として実施

② 令和6年度の具体的な活動内容

以下の6つのリサーチクエストに対して、「デジタル」と「リアル」の双方の側面からアプローチし、研究を進めた。

リサーチクエスト①

「山間部の高千穂郷・椎葉山地域に、なぜ数十キロにもおよぶ「山腹用水路」があるのだろうか？」

→『五ヶ瀬町史』等の文献調査により、「山腹用水路」が建設された歴史的な経緯や、当時の人々の思い等を明らかにした。

リサーチクエスト②

「高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」には、どのような特徴や工夫がみられるのだろうか？」

→竹下准教授との対話やフィールドワークによる現地調査等により、本地域特有の「山腹用水路」の特徴や工夫を明らかにした。

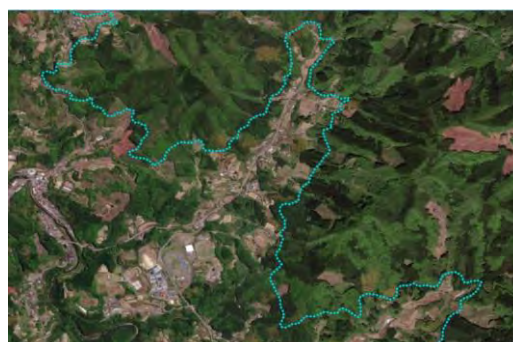


フィールドワークによる「山腹用水路」の現地調査

リサーチクエスト③

「高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」は、他の地域の用水路と比較して、どの程度曲がりくねっているのだろうか？」

→GIS（地理情報システム）や表計算ソフトを活用した分析により、「水路迂回度」を計算し、「山腹用水路」の曲がりくねり具合を明らかにした。



GISで作成した「三ヶ所用水」のポイントデータ